

平成27年度 事業報告書

平成27年度事業報告書

平成27年4月 1日から

平成28年3月31日まで

I. 法人の概要

1. 建学の精神・理念・方針

【建学の精神】

本学は、昭和14（1939）年、東北・北海道地区唯一の薬学教育機関である東北薬学専門学校として創立され、次いで昭和24（1949）年に東北薬科大学として開学した。

創立について特に誇りとするところは、国が廃止した薬学教育機関を、確固たる教育の理想のもと私学として民間の力で再興したことである。明治時代、政府は仙台に「仙台医学専門学校（東北大学医学部の前身）」を設立し医学科、薬学科を置いたが、大正6（1917）年、医学科だけを残し、薬学科を廃止した。以後約20年間、北日本には薬学教育機関が全く無くなり、この間、北日本の薬学の進歩、薬業界の発展は停滞するばかりであった。ことに薬学を志す者は、東京に出て学ばなければならず、経済的にも負担が大きく、その道に進むことが大変困難な時代が続いていた。当時、仙台市内で内科高柳病院を開業していた高柳義一博士は、かかる現状を憂慮し、また社会の熱い要請を受けて民間の先覚者達と共に努力の末、ついに昭和14年、東北薬学専門学校を創立した。

しかし、本学の歴史を顧みると、薬学専門学校の創立、そして大学の揺籃から発展へと至る道のは決して平坦ではなかった。創立当時、長期化していた戦争は次第に厳しさを増し、ひきつづいて第2次世界大戦、そして敗戦という有史以来の激動の時代となり、学生をはじめ法人役員、教職員の苦難は想像を絶するものがあつた。戦後、廃校の岐路に立ったこともあつたが、高柳義一博士は、ついに幾多の困難を乗り越え、昭和24（1949）年東北薬科大学の昇格設置にこぎつけ、本学の基礎を確立した。

創立にあたり、創設者たちは地域社会に貢献できる薬剤師の養成を最大の目標としつつ、薬学の教育・研究を通じ、広く人類の健康と福祉に貢献することを願い、真理の探究に邁進するという高い志を掲げた。この精神は、大学創設者高柳義一先生の残された「われら真理の扉をひらかむ」という言葉に凝縮され、本学の建学の精神として碑に刻まれ（開真の碑）、今に伝えられている。

真理の探究は、まさに大学の使命である教育・研究の原点であり、この建学の精神は今後も我々に医学・薬学の教育・研究において真摯に取り組む姿勢と努力を求め続けるものといえる。

【教育理念】

本学は、自然・人文社会科学分野における真理の探究を原点に、より高度で専門的な知識と能力を培うことを教育・研究の柱としている。特に医学・薬学は、人間とその生命にかかわる学問であり、広い視野と豊かな人間性が求められる。

本学は、「われら真理の扉をひらかむ」という建学の精神のもと、医学・薬学の教育研究を通じて、広く人類の健康と福祉に貢献することを願い、次の3点を教育理念に掲げている。

- 一、思いやりの心と高い倫理観をもち、専門的な知識と能力を兼ね備えた、社会に貢献できる人材を育成します。
- 一、真理の探究を志し、自ら課題を求め自分の力で解決できる人材を育成します。
- 一、友情を育み、人間形成に努めるとともに、国際的視野に立って活躍できる人材を育成します。

【アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー】

薬学部薬学科

○アドミッションポリシー

- 1. くすりの科学に興味を持ち、くすりに関する確かな知識を応用して、医療の現場で社会に貢献しようとする学生を求めています。
- 2. 医療の現場において薬剤師として必要とされる知識・技術や態度、さらには医療人としての倫理観などを身につけることができる学生を求めています。
- 3. 高等学校で、理科の基礎的な分野、特に化学をしっかり学ぶとともに、英語の素養や自ら考える姿勢、着実な学習習慣を身につけている学生を求めています。

○カリキュラム・ポリシー

医療人として心豊かな人間性と高い倫理観を育み、薬剤師に必要な知識・技能・態度を修得し、医療現場で活躍できる人材の養成を目的として、以下の教育課程を編成しています。

- 1. 低学年での教養教育・情報教育・早期体験学習から始まり6年次までの医療倫理関連教育を通じて、医療人を目指して学ぶ自覚と責任感を養い、医療人としての態度を醸成させるための科目を提供します。
- 2. 患者に適切に薬の情報提供を行い、患者から得られる情報を基にその治療効果・副作用の発生等を判断し、処方変更も含めた提案等により患者に安全で有効な医療を提供できるように、専門的な知識・技能・態度を修得するための科目を提供します。
- 3. チーム医療・地域医療に薬剤師としての専門性を発揮して参画し、地域住民の健康と福祉の向上・維持のために薬剤師としてできることを常に考え、積極的に貢献していくことのできる人材を養成するための科目を提供します。
- 4. 課題解決型授業や卒業研究を通じて、自ら課題を発見しその解決のために討議し取りまとめ実行することのできる、リーダーとしての資質と研究マインドを持ち自己研鑽できる人材を養成するための科目を提供します。

○ディプロマ・ポリシー

本学の教育理念に基づく教育課程を通じて、以下に示す医療人としての自覚と薬剤師として必要な知識・技能・態度を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位（学士（薬学））を授与します。

1. 教養と倫理

医療人としての豊かな教養と人間性を備え、生命の尊厳について深い認識をもち、命と健康を守る使命感、責任感を身につけている。

2. コミュニケーション能力

患者とその家族、医療と社会保障に関わるスタッフ等から適切に情報を収集し提供するためのコミュニケーション能力を有している。

3. 健康と福祉

地域住民の健康増進と福祉向上への取り組みに積極的に参画するための知識と意識を備えている。

4. 薬物療法

患者の病態に応じた有効で安全な総合的薬物療法を提供するために必要な生命科学、医療、医薬品に関する専門的な知識と技能を身につけ、チーム医療に積極的に参画できる。

5. 基礎的な科学力

医薬品・化学物質の生体に対する作用の理解、健康の維持、医療の進歩と改善に資するために問題を発見し、解決するための知識、論理的思考力を有している。

6. 自己研鑽

生涯に亘って科学・医療の進歩の恩恵を患者・生活者に提供できるよう、高い学習意欲を持って自己研鑽を続けることができる。

薬学部生命薬科学科

○アドミッションポリシー

1. くすりの科学に興味を持ち、最新の生命科学の専門知識を学び、新しい視点からくすりの問題に取り組もうとする探究心の強い学生を求めています。
2. くすりとヒトの関わりについて、生命科学を応用して、新たな問題に挑戦する意欲を持った学生を求めています。
3. 高等学校で、理科の基礎的な分野、特に化学をしっかり学ぶとともに、英語の素養や自ら考える姿勢、着実な学習習慣を身につけている学生を求めています。

○カリキュラム・ポリシー

薬に関わる幅広い知識や先端的な生命科学を学び、将来、薬の開発やバイオテクノロジー等の研究分野、人々の健康や生活環境の向上など様々な分野で活躍できる多様な人材の養成を目指し、以下の教育課程を編成しています。

1. 低学年での教養教育や薬学・生命科学教育を通じて、生命の尊厳に関する意識と高い倫理感を醸成し、研究者・技術者を目指して学ぶ自覚と責任感を養うための科目を提供します。
2. 医薬品・化学物質の生体に対する作用を理解し、研究者・技術者として創薬研究を行う上で必要な専門的な知識・技能・態度を修得するための科目を提供します。
3. 国内のみならず国際的にも社会の幅広い分野で活躍でき、薬学・生命科学の学習成果や研究成果を積極的に発信できる人材を養成するための科目を提供します。
4. 演習や卒業研究を通じて、自ら課題を発見しその解決のために討議し取りまとめ実行することのできる、リーダーとしての資質と強い探究心を持ち自己研鑽できる人材を養成するための科目を提供します。

○ディプロマ・ポリシー

本学の教育理念に基づく教育課程を通じて、以下に示す薬学・生命科学分野の研究者や技術者として必要な知識・技能・態度を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位（学士（薬科学））を授与します。

1. 教養と倫理

薬学・生命科学に携わる人としての豊かな教養と人間性を備え、生命の尊厳について深い認識をもち、社会で自身が果たす役割に対する使命感、責任感を身につけている。

2. 情報発信とコミュニケーション

薬学・生命科学の研鑽を積んだ者として積極的に社会と関わりを持ち、幅広い分野で自ら情報収集・分析を行い、その成果を効果的に発信できる。

3. 生命科学領域の専門性

医薬品・化学物質の生体に対する作用を理解するために不可欠である生化学や分子生物学に関する専門的な知識と技能を身につけている。

4. 創薬を担う力

創薬研究に必要な化学、生命科学、衛生化学、疾病と医療に関する専門的な知識と技能を身につけている。

5. 課題発見と解決

「われら真理の扉をひらかむ」の建学の精神のもと、常に真理を探究する姿勢を忘れず、自ら課題を求め自分の力で解決できる。

6. 自己研鑽

生涯に亘って科学・医療の進歩の恩恵を社会で暮らす人々に提供できるよう、高い学習意欲を持って自己研鑽を続けることができる。

大学院薬学研究科薬学専攻博士課程

○アドミッションポリシー

これからの高度先進医療を支え、将来、医療薬学分野での活躍を目指し、研究に意欲のある薬剤師を求めています。薬学部の6年制学科を卒業し薬剤師免許を有している者及び旧課程では薬剤師免許を有し、大学院博士前期課程（修士課程）を修了している者を対象としています。

○カリキュラムポリシー

本教育課程では、薬学の高度な知識と技術を駆使しながら臨床的課題の探究と解決、その成果の医療への応用を目指しています。これからの高度先進医療のなかで、医療薬学の分野において臨床的課題を見出し研究していくことのできる薬剤師及び研究者を養成します。この目的のため、本課程では、病院での臨床薬学研修（半年間コース又は一年間コース）が必修であることが特徴です。まず医療現場での臨床薬学研修で、薬剤師としての知識・技術・態度の臨床的能力を、一段と高め確実なものとしていきます。この研修成果を活かしながら、より高度な臨床的視点から研究課題を発見し、薬学専門研究へと発展させます。大学での教育・研究と医療現場での研修とを密接に連携させ、教育・研究を効率的に進めていきます。また、希望する研究課題が基礎薬学的な研究と関連する場合は薬科学専攻の協力研究室と連携し、自由にその課題を追究していくことが可能です。

○ディプロマポリシー

本学の教育理念に基づく教育課程を通して、薬学領域の専門的知識を活用しながら高度先進医療を推進し、臨床的課題を自ら研究できる薬剤師及び研究者としての能力を身につけ、所定の単位を修得し、博士学位論文の審査に合格した学生に学位（博士（薬学））を授与します。

大学院薬学研究科薬科学専攻博士課程前期課程

○アドミッションポリシー

1. 自ら創造的な思考力を発揮し、新しい問題に意欲的に取り組む能力を身につけることができる学生を求めています。
2. 科学的探求心および強い学習への意欲を培い、広い学識の修得を目指す学生を求めています。
3. 国際的にも活躍できる創薬科学研究者・技術者、高度医療情報提供者、環境・衛生技術者、医療を支える基礎分野の専門職業人等としての能力を身につけることができる学生を求めています。
4. 基礎薬学・分子薬学を基盤とした創薬・生命科学の専門的知識、技術の修得を通じて、製薬、化学工業、食品、化粧品、バイオなどの多様な業種の企業、各種研究所で活躍できる能力を身につけることができる学生を求めています。

○カリキュラムポリシー

専攻分野によって生命科学コースと創薬科学コースを設け教育課程を編成しています。両方のコースとも、特論講義科目において、生命科学研究、創薬科学研究を可能とする基礎教育に重点を置きながらも、より幅広い知識を身につけられるようにしています。また、医療薬学的知識も修得できるよう講義科目を揃え、薬学専攻の教室を協力研究室として加え講義の充実を図っています。さらに、薬の安全性、医療現場を理解する上で有用な基礎薬学研究に関する特論講義も合わせて開講し、後期課程への継続性を踏まえた科目構成と研究指導体制をとっています。課題研究では、指導教員が2年間を通して指導にあたり、実験研究を通じて高度な専門的知識を修得させ、理論と実践の調和のとれた研究者・技術者の育成を図ります。

○ディプロマポリシー

本学の教育理念に基づく教育課程を通して、理論と実践の調和のとれた研究者や、薬学に関わる研究者・技術者、高度医療情報提供者、環境・衛生技術者、医療を支える基礎分野の専門職業人等としての能力を身につけ、所定の単位を修得し、修士学位論文の審査に合格した学生に学位（修士（薬科学））を授与します。

大学院薬学研究科薬科学専攻博士課程後期課程

○アドミッションポリシー

1. 独創性と優れた技術力を発揮できる自立した研究者及び技術者を目指す強い意志のある学生を求めています。
2. 薬学系及び生命科学系大学における教育者・研究者となる強い意志のある学生を求めています。
3. 博士後期課程においてより深い専門性を修得し、その成果を国民の健康増進及び社会福祉の向上に貢献する強い意志のある学生を求めています。

○カリキュラムポリシー

前期課程と同様に、専攻分野によって生命科学コースと創薬科学コースを設け教育課程を編成しています。主として、高度な専門知識と実践的な応用力を養成するため、専攻分野別の研究、演習及び学生自らの研究テーマに基づいて行う実験研究科目で構成されます。また、学生一人ひとりの学修歴を考慮した教育研究を行うため、指導教授が毎年度学生との間で綿密な打ち合わせを行い、1年間の教育研究指導計画を作成します。各学生には1年次及び2年次の終了時に研究の進捗状況を公開セミナー形式で発表させ、指導教授以外の教員からの助言も活かしながら研究活動を推進させます。さらに、英語教育として講読会や英語論文作成法の指導を行い、自ら英語論文を執筆し欧文誌に投稿できる能力を養います。これらの過程を通して自立した研究者及び技術者の養成を図ります。

○ディプロマポリシー

本学の教育理念に基づく教育課程を通して、生命科学や創薬科学を中心とする専門分野における自立した研究者としての能力と国民の健康増進および社会福祉の向上のためにその研究成果を還元できる能力を身につけ、所定の単位を修得し、博士学位論文の審査に合格した学生に学位（博士（薬科学））を授与します。

医学部医学科（平成 28 年度開設）

○アドミッションポリシー

1. 本学の教育理念および本学医学部の使命に共感し、将来、東北地方の地域医療・災害医療に従事して、地域住民の健康を支える使命感に燃えた学生を求めます。
2. 高度で専門的な知識と技能を兼ね備えながら、病める人とその家族の思いに共感できる強い意志と柔らかな心をもった医師を志す学生を求めます。
3. 高等学校等で理科、数学、英語を十分に習得し、論理的に考える姿勢と着実な学習習慣を身につけている学生を求めます。

○カリキュラムポリシー

本学医学部の使命を果たすために、地域の医療ニーズを理解し、多職種および行政と連携しながら医療を提供することにより、地域住民の保健・福祉の向上に貢献できる幅広い臨床能力を有する医師の養成を可能にする教育課程を、医学教育モデル・コア・カリキュラムに準拠しつつ本学独自のカリキュラムを加えて、編成・実施します。

1. 心豊かな人間性を備え、生命の尊厳について深い理解を持つ医師を育むために、人文科学から臨床医学へ連続性ある倫理教育を実施する。
2. 病める人を生活者として全人的に捉える広い視野を育むために、講義と地域での体験学習を効果的に連動させる。
3. 地域医療に対する理解を深め使命感を醸成するために、同じ地域を繰り返し訪問しながら学ぶ、地域滞在型教育を行う。
4. 総合診療医を目指すために、地域医療の理解から総合診療力の養成へと段階的に学習する実践的な教育課程とする。
5. 救急・災害医療（放射線災害を含む）に対応できる医師を養成するために、特色ある体験学習や演習科目を編成する。
6. 問題発見能力、問題解決能力、自己研鑽能力を育むために、問題基盤型学習や双方向教育、グループ討論・発表などの主体的・能動的学習を取り入れる。
7. 効果的な修得のために、関連科目間の横断的および縦断的統合を図った教育課程とする。
8. アウトカム基盤型教育と適切な学習評価を実施する。
9. 多様な参加型臨床実習など医学教育の国際化に対応した教育を実施する。

○ディプロマポリシー

本学医学部の教育課程を履修して、所定の単位を修得した下記の学生に学位（学士（医学））を授与します。

1. 医療人としての自覚と医師として総合的な臨床能力を身につけていること。
2. 地域医療、災害医療に貢献する強い意志を持っていること。

2. 沿革

1939年 3月	「東北薬学専門学校」設置認可
1949年 3月	「東北薬科大学薬学部薬学科」設置認可
1955年 10月	運動場（28,047 平方メートル）完成
1957年 8月	文部省から教員の資格審査権が本学教授会に附与される。
1959年 4月	「附属癌研究所」開設
1962年 4月	我が国私立薬科大学初の「大学院薬学研究科修士課程」設置認可
1964年 4月	我が国私立薬科大学初の「大学院薬学研究科博士課程」設置認可
1965年 4月	「衛生薬学科」新設（2学科体制）
1969年 10月	体育館（1部2階建 2,496 平方メートル）完成
1971年 4月	「製薬学科」新設（3学科体制）
1996年 3月	講義棟（地下1階、地上8階建 7,128 平方メートル）完成
2002年 12月	大学院薬学研究科修士課程の入学定員の変更許可（10名から30名に）
2005年 3月	文部科学省「私立大学学術研究高度化推進事業 ハイテク・リサーチ・センター整備事業」に本学「生体内分子標的理論に基づく創薬とその臨床治療への応用」が採択される。
2006年 2月	新キャンパス整備事業第Ⅰ期工事、教育研究棟（地下1階、地上10階建 22,412 平方メートル）、ラジオアイソトープセンター（地下1階、地上3階建 996 平方メートル）、実験動物センター（地下1階、地上4階 1,972 平方メートル）完成
〃 4月	新薬学教育制度の下、薬学部に「薬学科（6年制-330名）」と「生命薬科学科（4年制-50名）」設置（2学科体制）
〃 4月	「附属癌研究所」を新たな研究テーマのもとに再構築し、「分子生体膜研究所」開設
〃 4月	文部科学省「私立大学学術研究高度化推進事業 学術フロンティア推進事業」に本学の「生体膜の糖鎖機能と疾患に関する薬学的研究」が採択される。
〃 4月	「臨床薬剤学実務実習センター」設置
2007年 7月	イタリア・カラブリア大学薬学部と「学術研究協力に関する協定」締結
2008年 4月	新キャンパス整備事業第Ⅱ期工事、学生ホール(地上3階建 3,822.25 平方メートル)、図書館・情報センター(地下1階、地上2階建 4,859.69 平方メートル)完成
〃 9月	スウェーデン・ウプサラ大学と「学術研究協力に関する協定」締結
〃 10月	インドネシア・サムラトランギ大学と「学術および教育協力に関する協定」締結
2009年 3月	新キャンパス整備事業第Ⅲ期工事、中央棟(地下1階、地上4階建 8,455.5 平方メートル)完成
〃 7月	文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」〔テーマB〕（学生支援推進プログラム）に本学の「薬学部4年生学科の学士力向上を目指したキャリア形成教育」が採択される。

〃 8月	中国・南通大学と「学術交流および教育協力に関する国際交流協定」締結
2010年 1月	イタリア・マーニャ・グレーチャ大学薬学部と「学術研究協力に関する国際交流協定」締結
〃 3月	新キャンパス整備事業第IV期工事（環境整備等）完了
〃 4月	薬学科、生命薬科学科の入学定員を各々330名から300名、50名から40名に変更 「大学院薬学研究科薬科学専攻修士課程」開設 文部科学省の「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に本学の「癌および加齢性疾患の制御とQOL向上を目指す創薬」が採択される。
〃 10月	モンゴル・モンゴル国立大学と「学術交流ならびに教育協力に関する協定」締結
2011年 12月	台湾 嘉南薬理科技大学との「姉妹校覚書」締結
2012年 4月	大学院薬学研究科に「薬科学専攻博士課程後期課程」と「薬学専攻博士課程」開設
4月	文部科学省の「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に本学の「生体膜糖鎖異常に起因する生活習慣病発症機序の解明と臨床への応用」が採択される。
8月	イタリア・ミラノ大学と「学術交流ならびに教育協力に関する協定」締結
12月	本学と、独立行政法人年金・健康保険福祉施設整理機構との間で、東北厚生年金病院を本学が譲り受ける契約を締結
2013年 4月	「東北薬科大学病院」開設
2013年 5月	ロゴマーク制定
2014年 9月	文部科学省「東北地方における医学部設置に係る構想審査会」において、本学の医学部構想が選定される。
2015年 3月	「医学部設置認可申請書」提出
2015年 6月	文部科学省の「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に本学の「アンメット・メディカル・ニーズに応える創薬基盤研究の推進および臨床応用への展開」が採択される。
2015年 8月	「医学部医学科」設置認可
2015年 9月	本学と、東日本電信電話株式会社との間で、NTT 東日本東北病院を本学が譲り受ける契約を締結

3. 設置する学校、学部、学科等（平成27年5月1日現在）

設置する大学		東 北 薬 科 大 学
設置する学部 ・学科等	学 部	○薬学部 ・薬 学 科 （6年制） ・生命薬科学科（4年制）
	大学院	○薬学研究科 ・薬学専攻博士課程（4年制） ・薬科学専攻博士前期課程（2年） ・薬科学専攻博士後期課程（3年）

4. 入学定員、学生数の状況（平成27年5月1日現在）

（平成27年5月1日現在）

区分		年次	入学定員	在籍者数		
				男	女	
学部	薬学科 (6年制)	1年	300	333	137	196
		2年	300	352	154	198
		3年	300	367	166	201
		4年	300	257	101	156
		5年	300	286	102	184
		6年	300	327	143	184
		計	1800	1922	803	1119
	充足率	106.78%		—	—	
	生命薬科学科 (4年制)	1年	40	26	11	15
		2年	40	41	19	22
		3年	40	33	12	21
		4年	40	31	16	15
		計	160	131	58	73
		充足率	81.88%		—	—
合計		1960	2053	861	1192	
充足率		104.74%		—	—	
大学院	博士課程 前期課程 薬科学専攻	1年	20	21①	8	13①
		2年	20	15①	8	7①
		計	40	36②	16	20②
	前期課程 後期課程 薬科学専攻 ※平成24年度設置	1年	3	5(1)・④	1(1)	4④
		2年	3	4(1)・②	3(1)・①	1①
		3年	3	3②	2②	1
		計	9	12(2)・⑧	6(2)・③	6⑤
	博士課程 薬学専攻 ※平成24年度設置	1年	3	4(2)	3(1)	1(1)
		2年	3	2	1	1
		3年	3	1	1	0
		4年	3	5	5	0
		計	12	12(2)	10(1)	2(1)
	合計		61	60(4)・⑩	32(3)・③	28(1)・⑦
充足率		98.36%		—	—	
総計			2113	893	1220	

()は社会人学生、○は留学生でそれぞれ内数

5. 入学試験の状況（過去3年分：平成26年度～平成28年度）

【薬学科】

内 容 区 分		人 数 ※ () 内 は 女 子 の 内 数				
		募 集 定 員	志 願 者 数	受 験 者 数	合 格 者 数	入 学 者 数
平成 28 年 度	推薦 (指定校)	50	55 (38)	55 (38)	55 (38)	55 (38)
	推薦 (公募)	75	158 (100)	158 (100)	75 (50)	75 (50)
	一般 (前期)	120	531 (277)	513 (270)	218 (115)	125 (67)
	一般 (後期)	32	253 (136)	178 (100)	51 (26)	23 (12)
	センター (前期)	15	343 (179)	338 (177)	109 (58)	23 (15)
	センター (中期)	5	32 (19)	32 (19)	20 (10)	1 (1)
	センター (後期)	3	29 (16)	29 (16)	14 (8)	4 (2)
	計	300	1,401 (765)	1,303 (720)	542 (305)	306 (185)
平成 27 年 度	推薦 (指定校)	50	48 (36)	48 (36)	48 (36)	48 (36)
	推薦 (公募)	75	167 (104)	167 (104)	79 (54)	79 (54)
	一般 (前期)	120	549 (284)	528 (279)	228 (129)	130 (72)
	一般 (後期)	32	281 (145)	203 (106)	53 (21)	32 (15)
	センター (前期)	15	362 (203)	357 (202)	112 (68)	17 (9)
	センター (中期)	5	40 (16)	39 (16)	18 (8)	2 (1)
	センター (後期)	3	21 (11)	21 (11)	12 (7)	5 (2)
	計	300	1,468 (799)	1,363 (754)	550 (323)	313 (189)
平成 26 年 度	推薦 (指定校)	50	53 (40)	53 (40)	53 (40)	53 (40)
	推薦 (公募)	75	166 (105)	166 (105)	79 (49)	79 (49)
	一般 (前期)	120	602 (314)	590 (310)	196 (108)	123 (61)
	一般 (後期)	32	298 (161)	210 (116)	48 (21)	37 (17)
	センター (前期)	15	450 (237)	446 (236)	126 (69)	19 (12)
	センター (中期)	5	55 (31)	55 (31)	25 (14)	4 (2)
	センター (後期)	3	36 (21)	36 (21)	15 (11)	3 (2)
	計	300	1,660 (909)	1,556 (859)	542 (312)	318 (183)

【生命薬科学科】

内 容 区 分		人 数 ※ () 内 は 女 子 の 内 数				
		募 集 定 員	志 願 者 数	受 験 者 数	合 格 者 数	入 学 者 数
平成 28 年度	推 薦 (指 定 校)	10	3 (3)	3 (3)	3 (3)	3 (3)
	推 薦 (公 募)	5	3 (2)	3 (2)	1 (1)	1 (1)
	一 般 (前 期)	15	22 (17)	21 (16)	15 (12)	3 (1)
	一 般 (後 期)	7	14 (6)	12 (6)	9 (4)	5 (2)
	セ ン タ ー (前 期)	3	31 (20)	30 (19)	18 (11)	1 (1)
	セ ン タ ー (中 期)	若干名	11 (6)	11 (6)	9 (5)	2 (2)
	セ ン タ ー (後 期)	若干名	8 (3)	8 (3)	7 (3)	1 (0)
	計	40	92 (57)	88 (55)	62 (39)	16 (10)
平成 27 年度	推 薦 (指 定 校)	10	3 (1)	3 (1)	3 (1)	3 (1)
	推 薦 (公 募)	5	4 (3)	4 (3)	4 (3)	4 (3)
	一 般 (前 期)	15	43 (20)	42 (19)	23 (11)	9 (5)
	一 般 (後 期)	7	16 (11)	10 (7)	6 (4)	6 (4)
	セ ン タ ー (前 期)	3	49 (32)	49 (32)	25 (16)	3 (2)
	セ ン タ ー (中 期)	若干名	14 (10)	14 (10)	9 (7)	0 (0)
	セ ン タ ー (後 期)	若干名	7 (4)	7 (4)	5 (2)	0 (0)
	計	40	136 (81)	129 (76)	75 (44)	25 (15)
平成 26 年度	推 薦 (指 定 校)	10	3 (0)	3 (0)	3 (0)	3 (0)
	推 薦 (公 募)	5	5 (2)	5 (2)	5 (2)	5 (2)
	一 般 (前 期)	15	40 (21)	39 (20)	31 (15)	13 (6)
	一 般 (後 期)	7	24 (16)	15 (10)	8 (6)	5 (4)
	セ ン タ ー (前 期)	3	58 (28)	58 (28)	27 (12)	8 (3)
	セ ン タ ー (中 期)	若干名	13 (10)	13 (10)	9 (7)	2 (2)
	セ ン タ ー (後 期)	若干名	17 (10)	17 (10)	12 (8)	3 (2)
	計	40	160 (87)	150 (80)	95 (50)	39 (19)

【医学部】

内 容		人 数 ※ () 内 は 女 子 の 内 数								
		募 集 定 員	志 願 者 数		受 験 者 数		合 格 者 数		入 学 者 数	
平成28年度	一般	100	2,458	(782)	2,278	(750)	297	(66)	100	(19)

【大学院 薬科学専攻 博士課程前期課程】 (定員20)

内 訳		人 数		
		志 願 者 数	合 格 者 数	入 学 者 数
入試区分				
平成28年度	推薦	3	3	3
	一次入試	4	4	4
	留学生(協定校)	0	0	0
	二次入試	3	3	2 ※辞退者1名
	社会人入試	1	0	0
	計	11	10	9
平成27年度	推薦	12	12	12
	一次入試	9	6	6
	留学生(協定校)	1	1	1
	二次入試	3	2	2
	社会人入試	0	0	0
	計	25	21	21
平成26年度	推薦	2	2	2
	一次入試	10	9	9
	留学生(協定校)	1	1	1
	二次入試	4	3	3
	社会人入試	0	0	0
	計	17	15	15

【大学院 薬科学専攻 博士課程後期課程】 (定員3)

内訳 入試区分		人数		
		志願者数	合格者数	入学者数
平成 28 年度	一般入試	0	0	0
	社会人入試	1	1	1
	留学生(協定校)	4	4	4
	進学試験	3	3	2
	計	8	8	7
平成 27 年度	一般入試	0	0	0
	社会人入試	1	1	1
	留学生(協定校)	3	3	3
	進学試験	1	1	1
	計	5	5	5
平成 26 年度	一般入試	0	0	0
	社会人入試	1	1	1
	留学生(協定校)	3	3	2
	進学試験	1	1	1
	計	5	5	4

※辞退者1名

【大学院 薬学専攻 博士課程】 (定員3)

内訳 入試区分		人数		
		志願者数	合格者数	入学者数
平成 28 年度	一般入試	4	4	4
	社会人入試	0	0	0
	計	4	4	4
平成 27 年度	一般入試	3	3	2
	社会人入試	2	2	2
	計	5	5	4
平成 26 年度	一般入試	3	3	2
	社会人入試	0	0	0
	計	3	3	2

6. 薬剤師国家試験の状況（過去5年分：平成23年度～平成27年度）

回数		出願者数	受験者数	合格者数（合格率）
第101回 H28.3.28厚生労働省発表 *既卒は、6年制卒 その他は、旧4年制卒	新卒	273	224	201 (89.73%)
	既卒	157	153	124 (81.05%)
	その他	13	10	1 (10.00%)
	計	443	387	326 (84.24%)
第100回 H27.3.27厚生労働省発表 *既卒は、6年制卒 その他は、旧4年制卒	新卒	318	269	206 (76.58%)
	既卒	119	117	70 (59.83%)
	その他	12	11	1 (9.09%)
	計	449	397	277 (69.77%)
第99回 H26.3.31厚生労働省発表 *既卒は、6年制卒 その他は、旧4年制卒	新卒	264	264	207 (78.41%)
	既卒	49	48	24 (50.00%)
	その他	14	10	0 (0.00%)
	計	327	322	231 (71.74%)
第98回 H25.3.29厚生労働省発表 *既卒は、6年制卒 その他は、旧4年制卒	新卒	280	280	266 (95.00%)
	既卒	28	28	21 (75.00%)
	その他	22	16	4 (25.00%)
	計	330	324	291 (89.81%)
第97回 H24.3.30厚生労働省発表	新卒	244	244	244 (100.0%)
	その他	39	31	12 (38.71%)
	計	283	275	256 (93.09%)

7. 平成27年度薬学共用試験の状況

	実施日程	合格者数	合格基準
CBT	本試験：平成28年1月7、8日 追再試験：平成28年3月3日	243名	正答率60%以上
OSCE	本試験：平成27年12月19、20日 追再試験：平成28年3月1日	246名	細目評価70%以上 概略評価5以上
共用試験	(CBT及びOSCEの両方を合格した者)	243名	

8. 平成27年度 進路の状況

平成27年度 進路状況

平成28年5月18日現在

	平成27年度学部生(28年3月卒業)													26年度		
	希望者数						内定(進学)者数							内定(進学)者数		
	薬学科 (H27.4月現在)			生命薬科学科 (H26.12月現在)			薬学科 H28.3月卒業生数224名				生命薬科学科 H28.3月卒業生数31名			薬学科 H27.3月卒業 269名	生命薬科学科 H27.3月卒業 30名	
	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	%	男子	女子	計	%	男女計	男女計
製薬会社	8	3	11	6	6	12	5	3	8	3.6%	7	6	13	41.9%	5	1
食品会社																
化粧品会社																
試験研究機関																
研究開発																
化学工業		1	1											1		
医療機器																
医薬品卸業				1	1						1		1	3.2%		1
CRO・SMO	1	1	2	1	3	4		1	1	0.4%		2	2	6.5%		
公務員	6	3	9	2	1	3	7	4	11	4.9%		2	2	6.5%	8	
国家	1		1				1		1	0.4%						
都道府県	5	2	7	2	1	3	6	3	9	4.0%		2	2	6.5%	8	
市町村		1	1					1	1	0.4%						
病院	36	58	94				32	48	80	35.7%					81	
国立	9	12	21				3	9	12	5.4%					9	
公立	12	22	34				10	16	26	11.6%					17	
法人	15	24	39				19	23	42	18.8%					55	
診療所																
研修生																
薬局	41	56	97				43	65	108	48.3%		1	1	3.2%	143	2
保険調剤	36	45	81				41	57	98	43.8%					113	1
一般・調剤	3	4	7													
漢方																
ドラッグストア	2	7	9				2	8	10	4.5%		1	1	3.2%	30	1
教育		2	2											1		
国立																
公立		1	1													
私立		1	1											1		
製造業																
情報通信業																
卸売・小売業											1		1	3.2%		
医療・福祉																
教育・学習支援業																
サービス業															1	
他業種											1		1	3.2%		
大学院進学 (内 本学大学院進学)	3	1	4	7	4	11	3	2	5	2.2%	6	4	10	32.3%	5	22
編入学・進学(その他)							(2)	(2)	(4)	1.8%	(5)	(4)	(9)	29.0%	(1)	(20)
その他																
未定	3	1	4													
合計	98	126	224	16	15	31	90	123	213	95.1%	16	15	31	100%	244	27
進路決定率							95.1%				100.0%				90.7%	90.0%
未定者							11				0				25	3

9. 平成27年度 奨学生等の状況

平成27年度 奨学生数調

(停止中も含む・留学生除く)

平成27年10月21日現在

奨学金名	詳細				大学(学部)							大学院						合計	
	種類	利子	併用	金額	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	M.C1年	M.C2年	D.C1年	D.C2年	D.C3年	D.C4年		計
日本学生支援機構 第一種	貸与	無利子	可	30,000~64,000	74	79	83	74	73	48	431	4	5	0	1	1	2	13	444
日本学生支援機構 第二種	貸与	有利子	可	30,000~140,000	125	121	133	98	94	87	658	1	1	0	0	0	0	2	660
高柳奨学金	貸与	無利子	可	64,000~124,000	3	9	15	9	12	7	55	3	3	0	1	1	3	11	66
亀井記念財団奨学金	貸与	無利子	可	40,000	4	6	1	2	1	3	17	0	0	0	0	0	0	0	17
若林運記念財団奨学金	給付	-	可	30,000	0	0	0	1	0	0	1							1	
交通遺児育英会奨学金	貸与	無利子	可	40,000~60,000	1	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	2
あしなが育英会奨学金	貸与	無利子	可	40,000~50,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
河内奨学金	給付	-	可(機構のみ)	40,000	1	1	1	2	1	1	7							7	
佐藤奨学金	給付	-	可	25,000	0	0	0	0	1	0	1							1	
福島県奨学金	貸与	無利子	不可	40,000	0	0	0	0	0	2	2							2	
茨城県奨学金	貸与	無利子	不可	40,000	0	1	0	1	0	0	2							2	
河北町育英会奨学金(山形)	貸与	無利子		30,000~40,000	0	0	0	0	0	1	1							1	
宇都宮市奨学金	貸与	無利子	可	35,000~45,000	0	0	0	0	1	0	1							1	
奥州市奨学金	貸与	無利子		40,000	0	0	0	1	0	0	1							1	
八戸市奨学金	貸与	無利子	可	40,000	0	1	0	0	0	0	1							1	
富谷町奨学金	貸与	無利子	可	30,000	0	1	0	0	0	0	1							1	
涌谷町奨学金基金	貸与	無利子	可	32,000	0	1	0	0	0	0	1							1	
三菱商事復興支援財団学生支援奨学金	給付	-	可(条件あり)	100,000	0	2	5	5	4	6	22	0	0	0	0	0	0	0	22
グラクノ・スミタケイン オレンジ・スカラシップ	給付	-	可	50,000	0	0	0	0	2	3	5							5	
ひかり薬局奨学金	給付	-	可(特別奨学金のみ)	50,000	4	4	2	1	1	0	12							12	
合計					212	226	240	194	190	159	1221	8	9	0	2	2	5	26	1235
併用者(貸与型)					43	48	43	28	32	23	217	0	1	0	0	0	0	1	218
実質奨学生数					169	178	197	166	158	136	1004	8	8	0	2	2	5	25	1029
在籍学生数					355	390	397	288	286	276	1992	20	15	8	6	4	5	58	2050
奨学生の割合					48%	46%	50%	58%	55%	49%	50%	40%	53%	0%	33%	50%	100%	43%	50%

平成27年度 特別奨学生数

平成27年5月23日現在

大学(学部)												
1年		2年		3年		4年		5年		6年		計
薬	生	薬	生	薬	生	薬	生	薬	生	薬	生	
18	2	18	2	18	2	18	2	17	-	18	-	115

※【奨学金額】1年次:(薬)400,000円/(生)350,000円

2年次以降:(薬・生)月額20,000円(年額240,000円)

平成27年度 私費外国人留学生特別奨学生数

平成27年5月1日現在

詳細	大学院							計
	種類	金額(月額)	M.C1年	M.C2年	D.C1年	D.C2年	D.C3年	
給付	80000円	1	1	2	1	2	-	7

※ 中国:南通大学3名、台湾:嘉南薬理大学2名、インドネシア:サムラランギ大学2名

平成27年度 私費外国人留学生授業料等減免者数

平成27年5月23日現在

割合	大学院						計
	M.C1年	M.C2年	D.C1年	D.C2年	D.C3年	D.C4年	
100%	1	1	3	2	2	-	9

※【授業料】博士課程前期課程:750,000円/博士課程後期課程:780,000円

平成27年度 T・A、R・A

平成27年5月1日現在

対象	詳細 金額(月額)※	大学院						計
		M.C1年	M.C2年	D.C1年	D.C2年	D.C3年	D.C4年	
T・A	30,000円	20	14	-	-	-	-	46
R・A	45,000円	-	-	2	3	2	5	

※学生の従事時間によって給付金額(時給(T・A:1,000円、R・A:1,500円))の減少あり

平成27年度 東日本大震災被災者支援特別措置者数

平成27年4月10日現在

	減免率	学生数				合計
		内訳				
		薬学科1年	薬学科2年	生命薬科学科1年		
全壊	50%	19	10	9	-	19
大規模半壊	25%	12	5	6	1	12
半壊			-	-	-	
学資支給者が死亡または行方不明	100%	1	1	-	-	1
原発	50%	10	6	4	-	10
合計		42	22	19	1	42

※【入学金】薬:400,000円、生:350,000円/【施設設備費】薬:525,000円、生:350,000円/【授業料】薬:1,300,000円、生:1,080,000円

10. 平成27年度 学位授与数

	平成27年9月	平成28年3月	合計
学士(薬学)	50	224	274
学士(薬科学)		31	31
修士(薬科学)		15	15
博士(薬科学)		3	3
博士(薬学)		4	4
博士(薬学) [論文]		1	1

11. 平成27年度 外部資金獲得の状況

平成27年度 科学研究費助成事業 採択一覧

2015/7/24 現在

研究種目名	種別	職名	代表者名	課題名	直接経費	間接経費	合計	
1 新学術領域研究	補助金	継続	教授	井ノ口 仁一	聴覚におけるガングリオシドの機能解明	3,200,000	960,000	4,160,000
2 基盤研究(B)	補助金	新規	教授	顧 建国	シアル酸による細胞機能制御の分子機構の解明	3,500,000	1,050,000	4,550,000
3 基盤研究(C)	基金	新規	診療放射線技師	森島 貴顕	嚥下造影検査時の新型放射線防護具の開発	1,600,000	480,000	2,080,000
4 基盤研究(C)	基金	新規	教授	関 政幸	抗がん剤カンプトテシンと複製フォーク	1,300,000	390,000	1,690,000
5 基盤研究(C)	基金	新規	教授	加藤 正	新規分子標的抗がん剤の創製を目指した生物活性天然物の合成研究	1,400,000	420,000	1,820,000
6 基盤研究(C)	基金	新規	教授	吉村 祐一	新規ヌクレオシド誘導体の開発を基盤とした核酸医薬研究の展開	2,000,000	600,000	2,600,000
7 基盤研究(C)	基金	新規	講師	太田 公規	ホウ素化合物ライブラリーを基盤としたミドルアップダウン型創薬研究	1,100,000	330,000	1,430,000
8 基盤研究(C)	基金	新規	准教授	溝口 広一	Methadoneを用いた難治性疼痛の特異的治療法の開発	1,300,000	390,000	1,690,000
9 基盤研究(C)	基金	新規	呼吸器センター長	海老名 雅仁	進行性肺線維症の早期鑑別診断と治療効果判定のための末梢血中循環miRNAの評価	400,000	120,000	520,000
10 基盤研究(C)	基金	新規	教授	山本 文彦	生体内安定性及び腫瘍認識能の向上を目指した放射性ヨウ素標識ナノ粒子キャリアの開発	1,200,000	360,000	1,560,000
11 基盤研究(C)	基金	継続	助教	佐々木 崇光	分泌型レポーター遺伝子発現iPS細胞によるCYP3A発現パターン再現モデルの構築	1,000,000	300,000	1,300,000
12 基盤研究(C)	基金	継続	講師	森本 かおり	腎不全進行抑制を目的とした尿毒症物質の代償性排泄経路の解明とその誘導	1,200,000	360,000	1,560,000
13 基盤研究(C)	基金	継続	准教授	菅野 秀一	酸化的ストレスを介した薬剤性肝障害における感受性因子の探索	1,200,000	360,000	1,560,000
14 基盤研究(C)	基金	継続	特任教授	桜田 忍	ヒスタミンを介した難治性疼痛形成機構の解明とその特異的治療薬の開発	900,000	270,000	1,170,000
15 基盤研究(C)	基金	継続	教授	大野 勲	ストレス誘発性喘息の病態発症に関与するオピオイド受容体遺伝子多型の解析	900,000	270,000	1,170,000
16 基盤研究(C)	基金	継続	准教授	稲森 啓一郎	摂食・代謝制御におけるガングリオシドの機能解明	1,200,000	360,000	1,560,000
17 基盤研究(C)	基金	継続	教授	丹野 孝一	慢性疼痛における脊髄アンジオテンシン系の役割の解明・新規治療法の開発を目指して	1,300,000	390,000	1,690,000
18 基盤研究(C)	基金	継続	准教授	中川西 修	海馬神経細胞新生促進を目指した精神疾患予防・治療法の開発	1,300,000	390,000	1,690,000
19 基盤研究(C)	基金	継続	教授	遠藤 泰之	新規疎水性構造を利用した分子設計による受容体制御の新たな展開	1,000,000	300,000	1,300,000
20 基盤研究(C)	基金	継続	講師	蓬田 伸	多剤耐性に寄与するP-糖タンパク質の発現の速さと量を規定する因子の同定	1,200,000	360,000	1,560,000
21 基盤研究(C)	基金	継続	教授	佐藤 憲一	基本的検査を用いた甲状腺機能異常の診断支援と健診・病院受診者でのスクリーニング	1,400,000	420,000	1,820,000
22 基盤研究(C)	基金	継続	腫瘍内科部長	木場 崇剛	神経因子由来の遺伝子群の導入による腫瘍細胞の増殖・再生法の開発	800,000	240,000	1,040,000
23 基盤研究(C)	基金	継続	講師	八百板 富紀枝	睡眠および食習慣の乱れに起因した生活習慣病動物モデルの確立と病態解明	1,000,000	300,000	1,300,000
24 基盤研究(C)	基金	継続	教授	藤村 務	糖鎖修飾を標的とした前立腺がん診断マーカーの開発	1,200,000	360,000	1,560,000
25 基盤研究(C)	基金	継続	呼吸器内科主任部長	関 雅文	インフルエンザと関連する重症肺炎の「ネッツ」制御による新たな治療戦略の可能性	1,200,000	360,000	1,560,000

26	挑戦的萌芽研究	基金	新規	教授	願 建国	コアフコースでがんを制す	1,600,000	480,000	2,080,000
27	若手研究(B)	基金	新規	助手	中林 悠	DNA二本鎖切断修復経路の選択におけるコアヒストンの役割	1,600,000	480,000	2,080,000
28	若手研究(B)	基金	新規	助教	齋藤 陽平	低線量・低線量率の放射線治療効果向上を目的とした新規放射線増感剤の開発	1,400,000	420,000	1,820,000
29	若手研究(B)	基金	継続	助手	青木 空真	副腎皮質機能不全において適切なステロイド補充量を提案する数理モデルの構築	600,000	180,000	780,000
30	若手研究(B)	基金	継続	助教	名取 良浩	C1位に側鎖を持つイミノフラノース誘導体のライブラリー構築とその酵素阻害活性評価	1,000,000	300,000	1,300,000
31	若手研究(B)	基金	継続	助教	山崎 寛之	休眠遺伝子エピジェネティック制御の新しい標的を利用する糸状菌代謝産物生産法の開発	800,000	240,000	1,040,000
32	若手研究(B)	基金	継続	助教	村田 敏拓	新規昆虫生体内試験系を導入したモンゴル薬用植物の成分・薬効解析と独自の伝承の活用	1,100,000	330,000	1,430,000
33	若手研究(B)	基金	継続	助手	山本 由美	ニメスリドをリード化合物としたCOX-2イメーjing剤の開発	1,200,000	360,000	1,560,000
34	若手研究(B)	基金	継続	助教	深瀬 友香子	聴覚障害者の模倣能力の検証:運動指導におけるより有効な視覚情報提示を目指して	100,000	30,000	130,000
35	若手研究(B)	基金	継続	助教	立田 岳生	新規抗がん剤としてのリボスクレアーゼの機能解析	1,000,000	300,000	1,300,000
36	若手研究(B)	基金	継続	講師	星 憲司	ワイヤレスセンサーネットワーク(WSNs)による分散型服薬モニタリングシステム	1,700,000	510,000	2,210,000

日本学術振興会交付分 合計 45,900,000 13,770,000 59,670,000

研究分担者 (2015/7/24現在)

	研究代表者所属	種別	職名	分担者名	課題名
1	基盤研究(B)代表者 立教大学・黒田 智明	一部基金	准教授	八百板 康範	中国横断山脈地域における植物進化・分化の化学的遺伝的側面からの理解
2	基盤研究(B)代表者 名古屋市立大学・松永民秀	一部基金	教授	永田 清	ヒトiPS細胞の肝細胞及び腸管上皮細胞への分化と初回通過効果予測モデル系の構築
3	基盤研究(C)代表者 東北大学・笹田 博通	基金	特任教授	松山 雄三	18世紀啓蒙主義の自然観と現代の教育哲学
4	基盤研究(C)代表者 埼玉医科大学・太田 洋充	基金	呼吸器センター長	海老名 雅仁	“MUC4”の遺伝子多型が薬剤性肺障害をおこす分子細胞生物学的機序の解明
5	基盤研究(C)代表者 東北大学・内藤 剛	基金	低侵襲外科センター長	柴田 近	SREBP発現における十二指腸空腸バイパスの意義—NAFLD治療の新たな選択肢—
6	基盤研究(C)代表者 富山大学・足立 伊佐雄	基金	助教	名取 良浩	結核菌細胞壁の構築阻害を特徴とする新規イミノ糖型治療薬のデザイン合成研究
7	基盤研究(C)代表者 順天堂大学・高宮信三郎	基金	准教授	藤村 務	異環境に棲息する寄生蠕虫ミトコンドリア呼吸鎖のプロテオーム解析
8	基盤研究(C)代表者 順天堂大学・高ひかり	基金	助教	藤村 務	膀胱がんにおける尿中腫瘍マーカーの探索
9	基盤研究(C)代表者 横浜薬科大学・山下幸和	基金	講師	大野 賢一	副腎皮質病態解析の「ためのtargeted steroidomics研究
10	基盤研究(C)代表者 横浜薬科大学・山下幸和	基金	助教	加藤 創	副腎皮質病態解析の「ためのtargeted steroidomics研究
11	基盤研究(C)代表者 横浜薬科大学・山下幸和	基金	助手	小松 祥子	副腎皮質病態解析の「ためのtargeted steroidomics研究
12	厚生労働科学研究費代表者 東邦大学・本間 栄		呼吸器センター長	海老名 雅仁	びまん性肺疾患に関する調査研究

平成27年度 寄附金一覧(奨学寄附金・共同研究費・受託研究費)

No.	申込者	区分	研究題目	研究期間	金額(総額)	直接経費	間接経費	受領者	申込日	入金日	交付通知	備考
	公益財団法人ノバルティス科学振興財団	奨学	糖脂質を介した宿主下部の炎症における新規のメタボリック受容体シグナル制御機構	平成27年4月1日～平成28年3月31日	1,000,000	1,000,000	0	機能病態分子学教室 准教授 稲森啓一郎	2月24日	5月7日	5月13日	※研究助成公募(「第28回ノバルティス研究奨励金」採択分)
	公益財団法人日中医学協会	奨学			300,000	300,000	0	機能病態分子学教室 教授 井ノ口仁一	5月18日	6月24日	7月2日	
	公益財団法人水谷精興科学振興財団	奨学	第9回東北薬科大学附属生体膜研究所・第9回東北糖鎖研究会合同シンポジウム開催支援		200,000	200,000	0	東北薬科大学分子生体膜研究所 井ノ口仁一	5月29日	6月23日	7月2日	※研究助成公募(「国内学術会議開催助成」採択分)
	公益財団法人武田科学振興財団	奨学	休眠生成遺伝子の発現に関わる新しいエピソード因子の探索と新規系統二次代謝物生産への応用」		2,000,000	2,000,000	0	天然物化学教室 助教 山崎寛之	7月6日	7月29日	9月3日	※研究助成公募(「2015年度薬学系研究奨励」採択分)
	大日本住友製薬株式会社	奨学			500,000	500,000	0	臨床感染症学教室 教授 藤村茂	7月15日	8月31日	9月3日	
	第一三共株式会社	奨学			500,000	500,000	0	附属病院 呼吸器内科 関 雅文	9月29日	10月23日	10月28日	
	MSD株式会社	奨学			500,000	500,000	0	臨床感染症学教室 教授 藤村茂	10月16日	11月25日	11月26日	
	公益財団法人かなえ医薬振興財団	奨学	インドネシア北スラウェン州に棲息する海洋生物を資源とした生物活性物質の探索	助成金交付後～平成29年3月	1,000,000	1,000,000	0	天然物化学教室 助教 山崎寛之	11月4日	11月25日	11月26日	※研究助成公募(「第44回アジアオセアニア交流研究助成金」採択分)
	大正富山医薬品株式会社	奨学			500,000	500,000	0	臨床感染症学教室 教授 藤村茂	11月6日	12月15日	12月17日	
	公益財団法人日本科学協会	奨学	Induced production of new epidithiodiketopiperazines by the Palauan marine-derived fungus <i>Trichoderma</i> sp. TPU199. 他	平成27年12月15日～平成27年12月20日	229,000	229,000	0	天然物化学教室 助教 山崎寛之	2月15日	2月29日	3月1日	※研究助成公募(「平成27年度海外発表促進助成金」採択分) ※(公財)日本科学協会の規定により本人以外への入金不可のため、山崎助教から本学へ入金という形に対応。
	(公財)赤枝医学研究財団	奨学	代謝系ヒト化マウスの作製	平成28年2月～平成29年2月	1,000,000	1,000,000	0	感染生体防御学教室 准教授 佐々木雅人	12月25日	3月17日	3月18日	※研究助成公募(「27年度研究助成金」採択分)
	大正富山医薬品株式会社	奨学			500,000	500,000	0	臨床感染症学教室 教授 藤村茂	2月29日	3月31日	4月7日	
	Meiji Seika ファルマ(株)	奨学			500,000	500,000	0	臨床感染症学教室 教授 藤村茂	2月23日	3月31日	4月7日	
	Fonterra② <ニュージーランド>	共同	ガングリオンド合成酵素およびセラミド合成酵素欠損マウスに対するミルク含有ガングリオンドの治療効果の検討	平成26年10月1日～平成29年3月31日	13,990,508	13,990,508	0	機能病態分子学 教授 井ノ口仁一	-	平成27年7月21日	-	①H26.10:1400万円②H27.4:1400万円③H27.12:250万円④H28.3:250万円⑤H28.8:250万円⑥H28.12:250万円⑦H29.3:200万円 7分割払い ※①、②は入金済み ※先方から研究試料の到着が遅れたため、契約締結時からスケジュールの変更あり(H27.3)
	文部科学省	共同	HDAC/Pi3K 二重阻害作用を有する新規アジペンテド類縁体の開発	平成27年4月1日～平成28年3月31日	2,500,000	2,500,000	0	医薬合成化学教室 教授 加藤正	3月9日	10月23日	10月28日	「研究開発施設共用等促進費補助金(橋渡し研究加速ネットワークプログラム)」 ※研究代表者:東北大学病院 石岡教授
	協和メディックス	共同	コアフォースを認識する抗体断片の取得	平成27年7月1日～平成28年6月30日	300,000	300,000	0	分子生体膜研究所 細胞制御学教室 教授 藤建国	7月1日	9月30日	10月5日	
	公益財団法人野口研究所	共同	慢性炎症疾患発症におけるガングリオンドの機能解明及びその制御剤の測定系の確立と制御剤スクリーニング	平成27年4月1日～平成28年3月31日	1,000,000	1,000,000	0	分子生体膜研究所 機能病態分子学教室 教授 井ノ口仁一	7月21日	9月30日	10月5日	
	あおり産産業組合	共同	天然産物含有成分の有効活用に関する薬学的研究	平成27年8月1日～平成28年3月31日	600,000	600,000	0	生薬学教室 教授 佐々木健郎	8月1日	9月10日	9月11日	
	ゼリア新薬工業株式会社	共同	消化器疾患及びそれに伴う精神症状に対する肝臓水解物の効果	平成28年3月22日～平成29年12月31日	1,000,000	1,000,000	0	薬理学教室 教授 丹野孝一、准教授 中川西修	3月7日	3月31日	4月7日	
	内閣府食品安全委員会	受託	レチノイン酸の濃度変化を引き起して癌奇形性を示す化学物質のスクリーニング法の開発と癌奇形性発症の分子機構の解明	平成27年4月1日～平成28年3月31日	11,000,000	10,007,000	993,000	環境衛生学教室 教授 永田清	平成27年3月5日	平成28年4月26日	-	平成27年度「食品健康影響評価技術研究」採択分。 ※共同研究者2名に各200万円配分。 (総額1500万円)
	近畿中央胸部疾患センター(平成27年度(難治性疾患等克服研究事業))	受託	肺胞蛋白質、遺伝性間質性肺疾患に関する研究:重症難治化要因とその克服	平成27年6月2日～平成28年3月31日	500,000	500,000	0	附属病院 呼吸器センター長 海老名雅仁	2月20日	9月30日	10月5日	「難治性疾患等克服研究事業」 ※研究代表者:近畿中央胸部疾患センター 井上義一センター長
	東邦大学(平成27年度(難治性疾患等克服研究事業))	受託	エビデンスに基づいたIPF新治療戦略の開発:慢性進行性肺線維化症例の治療戦略の開発	平成27年4月1日～平成28年3月31日	200,000	200,000	0	附属病院 呼吸器センター長 海老名雅仁	4月1日	12月11日	12月17日	「難治性疾患等克服研究事業」 ※研究代表者:東邦大学 本間栄教授
	科学技術振興機構	受託	画期的なX線造影検査時の術者被ばく線量低減保護具の開発	平成27年1月1日～平成27年12月31日	1,170,000	900,000	270,000	附属病院 放射線技術師 森島貴顕	平成26年12月2日	5月7日	-	※研究助成公募(「A-STEP」採択分として)
	扶桑薬品工業株式会社	受託	細菌同定キット「DiagnoSep」の臨床検体適応性評価研究	平成27年12月10日～平成29年3月31日	1,500,000	1,350,000	150,000	附属病院 呼吸器内科主任部長 関 雅文	11月25日	1月20日	1月22日	

区分	件数	金額
奨学寄附	13	8,729,000
受託研究	5	14,370,000
(共同研究)	6	19,390,508
合計	24	42,489,508

間接経費	3	1,413,000
------	---	-----------

1.2. 役員・教職員の概要（平成27年5月1日現在）

(1) 理事（定数7～9名、現員8名、任期4年）

○理事長 高柳元明 ○理事 沼澤光輝
 ○理事 櫻田忍 ○理事 高柳和江
 ○理事 和田裕一 ○理事 堀田徹
 ○理事 福田寛 ○理事 近藤丘

(2) 監事（定数3名、現員3名、任期4年）

○監事 立花鐵夫 ○監事 三浦幸雄
 ○監事 千葉信博

(3) 評議員（定数15～20名、現員19名、任期4年）

○評議員 高柳元明 ○評議員 佐久間博明
 ○評議員 沼澤光輝 ○評議員 鈴木征
 ○評議員 櫻田忍 ○評議員 高柳和枝
 ○評議員 安積茉莉子 ○評議員 和田裕一
 ○評議員 千代川千代吉 ○評議員 一條宏
 ○評議員 堀田徹 ○評議員 佐藤好克
 ○評議員 福田寛 ○評議員 八島信男
 ○評議員 遠藤泰之 ○評議員 柴田信之
 ○評議員 井ノ口仁一 ○評議員 近藤丘
 ○評議員 大野勲

(4) 教員

①常勤

学長	教授	准教授	講師	助教	助手	合計
1	37	17	17	26	14	112

②非常勤

非常勤講師
42

(5) 職員

事務職	医療職	用務職	合計
51	1	2	54

(6) 病院職員

医 師		看護師		コメディカル スタッフ		事務職		その他		計	
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
67	16	16	363	59	77	30	56	13	34	185	546
83		379		136		86		47		731	

Ⅱ. 事業概要

1. 教育と研究の充実

(1) 新カリキュラムの運用開始

薬学教育モデルコアカリキュラム改訂版に基づき、学則を改正（平成27年4月1日施行）し、薬学科において、平成27年度から新カリキュラムに基づいた薬学教育を開始しました。

(2) 薬剤師国家試験対策の強化

CBT対策の一環として実施している薬学科4年次に対する薬学実力試験を今年度も実施しました。（7月：第1回、10月：第2回、12月：第3回）

薬剤師国家試験対策模擬試験を次のとおり実施し、その都度成績不振者に補講を実施しました。

なお、薬学科6年次学生に対し、早い時期に国家試験を意識させるため、今年度から4月に第1回薬剤師国家試験対策模擬試験を実施しました。

【薬学科5年次】4月：第1回、12月：第2回、

【薬学科6年次】4月：第1回、8月：第2回、9月：第3回、12月：第4回、2月：第5回、1月：任意で実施

(3) 各種研究活動

既に採択されている私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「生体膜糖鎖の異常に起因する生活習慣病発症機序の解明と臨床への応用」（平成24年度～平成28年度）に加え、平成27年度新たに「アンメット・メディカル・ニーズに応える創薬基盤研究の推進および臨床応用への展開（平成27年度～平成31年度）」が採択されました。社会的要請の強い研究課題に取り組み、研究成果が期待されています。

なお、公的研究費の不正使用、研究活動における不正行為（捏造、改ざん、盗用）等の事案が多発しており、研究倫理教育の充実が叫ばれていることを踏まえ、研究活動に関わる教育職員及び業務に関係のある事務職員に対して、CITI Japanが実施する研究者の行動規範教育（e-learning）を受講させました。また、本学に在籍するポスドク、研究員及び大学院生についてもCITI Japanが実施する研究者の行動規範教育 e-learning を受講させています。

2. 学生支援体制の強化

(1) 学内支援体制

本学では、1年次から4年次まで（生命薬科学科は3年次まで）は組担任が、5年次の教室配属後は配属教室責任者が学生支援にあたっています。さらに、組担任、配属教室責任者のほか、学年主任、クラブ顧問、学生課、教務課、就職課などの各セクションも学生との接点となっており、学生との十分なコミュニケーションを図りながら連携して、他面的に助言指導ができる体制となっています。また、授業担当教員は、毎週オフィスアワーを設け、学生からの相談を受け、指導を行うことなどによって、学生との信頼関係構築に努めています。

この他、保健管理センターには医師、看護師、カウンセラーが常駐しており、学生及び職員の日常の健康管理、相談業務や各種健康診断の実施と事後指導の徹底を図っています。

また、学生相談室においては、学生の抱える学修や課外活動などの学生生活全般において生じる悩みや疑問などの相談に応じ、問題解決の一助となるような支援を行っています。

(2) 経済的な支援

学部学生を対象とした特別奨学生制度のほか、大学院の日本人学生に対する経済的支援策として、修士課程の院生をT A（ティーチングアシスタント）として雇用し、月平均 30 時間分の手当（3 万円）を支給し、博士課程の院生については、R A（リサーチアシスタント）として同様に月平均 4 万 5 千円を支給しています。また、本学との協定校から留学した大学院学生については、学業成績が優秀でかつ経済的困窮度が高い学生に対し、本学独自の外国人留学生特別奨学金制度（給付型）を設け、支援を行っています。

他に、人物・学業が健全かつ優秀で、修学上経済的に困難な学生を対象とした、本学独自の「東北薬科大学創設者高柳義一奨学金」を設けています。

日本学生支援機構、地方公共団体、民間育英団体等の奨学金を含め学内説明会を開催するとともに、学生に対しては、個別の相談や出願手続を行うなどの支援を行っています。

(3) 震災による被災学生に対する経済的支援

平成 27 年度は、以下のとおり実施しました。

- 主たる家計維持者が死亡または行方不明の場合 1 名
入学金・授業料・施設設備費を全額免除
- 主たる家計維持者が所有し、居住する自宅家屋の被害の程度により
全壊・・・入学金・授業料・施設設備費半額免除 19 名
大規模半壊・・・入学金・授業料・施設設備費 1/4 免除 12 名
- 主たる家計維持者が居住する自宅家屋が福島第一原子力発電所の事故に伴う避難指示又は避難勧告等を受けた地域にあり、長期にわたって自宅家屋に居住が困難と認められる場合
入学金・授業料・施設設備費半額免除 10 名

(4) 新入生オリエンテーション

学生が、倫理感、人間力、主体性を持ってこれからのキャンパス生活を送ることを目的とし、学生参加型のワークショップや学生部オリエンテーション、生活講習、相談コーナーやキャンパスツアー、ウェルカムイベントや懇親会等を実施しました。

(5) 就職活動支援

就職支援活動として、就職ガイダンス、各種業界説明会、合同就職説明会、インターンシップ、就職活動体験発表など多岐にわたる支援を行いました。平成28年度卒業予定者については、昨年度同様12月に業界や業務内容を学ぶ機会として、業界・仕事研究セミナーを実施しました。4月には学内において合同就職説明会を開催、病院・製薬会社等3日間で計345の事業所の参加があり、薬学科6年生・生命薬科学科3年生をはじめとして延べ1502名の学生の参加がありました。

就職部就職課においては、学生の様々な相談に対して、個別の面談を通して具体的なアドバイスを行いました。求人先に関する種々の情報提供、面接指導、履歴書・エントリーシートなどの添削指導等を行うほか、病院、薬局等の見学希望者については、見学先への連絡、日程調整等も随時行いました。また、就職に関する様々な問題の検討と就職指導を的確かつ迅速に進めるため、就職部長を委員長とする就職部委員会において、配属教室の指導教員や組担任とも連携を図りながら、学生へ指導・助言を随時行いました。特に薬剤師の免許取得を前提としない生命薬科学科の学生に対する進路指導は、3年次後半の就職活動が開始される前に全員と面談を行い、進路に関する相談と確認を行って

ます。このような支援活動の成果により、平成27年度の進路決定率は、薬学科が95.1%、生命薬科学科が100.0%と、例年並の高い就職率を維持することができました。

3. 入試・広報活動の強化

(1) 入試広報活動

平成27年度は、例年実施している薬学部を対象とした入試広報活動に加えて、平成28年度に設置する医学部の認知や入試制度の周知を目的として、大幅に拡充して広報活動を行いました。

6月25日(木)に、東北6県及び北関東の高等学校及び予備校の進学指導担当者(99校119名)を対象とした「進学指導者のための入試説明会」を開催し、大学の紹介、薬学教育の現況、医学部の概要、教育方針と特色、入試の概要説明、個別相談等を行いました。6月下旬から12月にかけては、推薦入学試験指定校となっている高等学校や、合格実績のある高等学校及び医学部進学校を中心に東北6県のほか北海道、新潟、北関東の高校延べ382校(昨年度309校)への訪問を実施しました。また、高等学校からの依頼による出張講義を18校で実施したほか、中学校4校、高等学校9校の依頼を受けて、本学の概要説明や施設見学受入等を実施しました。その他、薬剤師会及び業者主催の進学相談会(12都道府県23会場)に参加しました。

平成28年度開設の医学部については、上記の高校訪問や進学相談会に加え、本学主催の説明会を10会場(東北9会場、東京1会場)で実施しました。また、予備校及び宮城県主催の説明会(12会場)に参加しました。

(2) オープンキャンパス・入試相談コーナー

平成27年度のオープンキャンパスは、8月1日(土)、8月2日(日)に開催し、参加者人数は、平成26年度より100名多い1,504名でした。

入試相談コーナーについては、オープンキャンパス時に142名が、10月11日開催の大学説明会時に15名が訪れ、入試に関する相談に応じました。

(3) 大学ポートレート

平成26年度に参加した日本私立学校振興・共済事業団が運営する大学ポートレートの情報を随時更新し教育情報の積極的公開に努めました。

4. 薬学教育評価機構の評価認定

本学は、平成27年度の一般社団法人薬学教育評価機構(以下「評価機構」という。)が実施する第三者評価の認定を受けるために、自己点検・評価書を作成し、平成27年4月に評価機構へ提出しました。同年5月に、薬学教育評価申請書及び評価資料を評価機構へ提出し受理された後、評価機構による評価が開始されました。同年10月20日・21日に評価機構の評価チームによる訪問調査が実施されました。平成28年3月に評価機構からの最終的な調査報告書により、本学は、評価機構が定める薬学教育評価の評価基準に適合していることが認定されました。なお、認定の期間は、2023年3月31日までの7年間となっています。

5. 医学部設置に伴う事業の実施

(1) 医学部設置認可までの諸手続等

平成 27 年 3 月末に提出した医学部設置認可申請に伴い、その後の審査への対応等を、以下のとおり行いました。

1) 大学設置審議会関係

月 日(曜日)	項目	内容、本学の対応等
5 月 25 日(金)	審査意見伝達	審査意見(第 1 次)、教員審査結果
	審査意見に対する補正対応	意見への対応検討、調書修正、 教員業績補正、教員補充
6 月 4 日(木)	学校法人分科会 面接審査 (於:文科省)	管理運営体制、財務関係等について質疑
6 月 17 日(水)	大学設置分科会 実地調査 (於:本学・附属病院)	面接審査、施設・設備等調査、追加質疑
6 月 30 日(火)	補正申請書提出	審査意見に基づく補正申請
8 月 10 日(月)	補正申請の教員審査結果伝達	
8 月 17 日(月)	教員審査の再補正書提出	
8 月 31 日(月)付	設置認可	文部科学大臣から認可書交付

2) 構想審査会関係

第 7 回 構想審査会 (於:文科省)

8 月 20 日(木) 医学部設置に係る東北薬科大学の対応状況について質疑
平成 27 年 3 月 19 日開催(第 6 回)『「構想審査会」の「選定にあたっての条件」の検証結果について』への本学の対応状況

3) 東北医科薬科大学医学部教育運営協議会関係

第 7 回協議会開催

7 月 27 日(月) 医学部設置に向けた準備状況について質疑
(修学資金、ネットワーク病院等の進捗状況)

(2) 医学部設置に向けた準備

平成 28 年 4 月開設に向けた諸準備を、以下のとおり行いました。

1) 入試関係

①募集活動の強化

大学案内の作成、HP・受験雑誌への募集案内掲載・リーフレット作成、高校訪問の拡充及び説明会を開催しました。

②入試実施体制の検討

入試会場の確保(東京 3 か所・(2 か所で実施)と本学)を実施しました。

③入学試験

一次試験 2 月 1 日実施 筆記試験 受験者数 2,278 名 合格者数 606 名
二次試験 2 月 13 日実施 面接 受験者数 518 名

④入学者

100名（うち修学資金枠55名）が入学しました。

2) 修学資金関係

①制度の確定

各県の制度との調整

A方式（宮城県枠30名、その他5県枠5名）

B方式（宮城県を除く5県枠20名）

②修学資金貸付等の管理運営を行う法人の立ち上げ

「東北地域医療支援機構」設立登記（平成27年10月9日）、法人定款の作成、貸与規定等整備、理事選任、理事会の開催（第1回：11月25日、第2回：1月26日、第3回3月24日）

③東北地域医療支援修学資金（資金循環型・宮城県枠）創設記念式典参加

クウェート国からの資金提供を受けて、宮城県から支援を受ける修学資金の基金に関し、宮城県庁において、クウェート国、日本赤十字社、東北地域医療支援機構、本学、宮城県の代表が出席して平成28年2月10日（水）に「クウェート国友好医学生修学基金」設立の記念式典が行われました。

3) 授業実施関係

①授業計画の策定

シラバスの作成と調整、時間割作成、学生便覧の作成、履修規程、単位認定方法、進級規定等の検討

②授業の円滑な実施

専用教室の確保（講義棟1階改修、結露防止工事）、実習室等、薬学部との使用調整、実習・実験用機器類の準備

4) 連携関係

①サテライトセンター、ネットワーク病院

地域医療教育サテライトセンターの設置について基本合意締結（登米市、石巻市の了承）
地域医療ネットワーク病院の基本合意締結（宮城県9病院、その他の5県は、各2病院了承）

②東北大学との連携

東北大学医学部との間で、教育研究、医師派遣等について「新設医学部連携室会議」において協議開始

東北大学歯学部が、本学の研究活動を維持するためにレンタルラボの提供を了承（教育研究棟完成までの2年間借用予定）

③学生の解剖学実習用の献体確保

東北大学白菊会、東北大学医学部・歯学部の理解と協力により、本学が東北大学白菊会に参画することになり、献体を確保出来ることになりました。合同慰霊祭、納骨式等の行事関係も含め、全て東北大学と合同で行います。

④宮城県との連携

「宮城県医師育成機構」の理事として2名が参画することになりました。また、本学、東北大学、宮城県医師確保対策室の担当者レベルで、県内医師派遣等を含めた地域医療に関し、継続して打ち合わせを行います。

5) 教員関係

①採用内定通知

設置認可通知を受領後、教員就任予定者全員に採用内定通知を発送しました。

②研究室整備

教育研究棟が完成するまでの間、暫定的な（2年間）な措置として、基礎・社会医学系教員については、小松島キャンパスの中央棟、ウエリタスを整備し、臨床系教員については、附属病院のカルテ室、図書室を改修し、居室を確保しました。

③説明会の実施

設置認可後、教員就任予定者を対象に、医学部の教育理念・目的を共有し、円滑な学部運営を進めるため、医学部の設置構想、運営方針等の周知と諸準備のため説明会を実施しました。

- | | | |
|-----|----------------|--------------------|
| 第1回 | 平成27年9月12日（土） | 対象：全内定者 |
| 第2回 | 平成27年10月3日（土） | 対象：教室責任者予定者 |
| 第3回 | 平成27年10月24日（土） | 対象：基礎系教員 |
| 第4回 | 平成27年11月2日（月） | 対象：基礎教養・準備教育科目担当教員 |
| 第5回 | 平成27年11月7日（土） | 対象：臨床系教員 |
| 第6回 | 平成28年2月14日（日） | 対象：平成28年4月採用者 |
| 第7回 | 平成28年2月20日（土） | 対象：平成28年4月採用者 |
- その他、少人数による打ち合わせを頻繁に行いました。

（カリキュラムの理解、シラバスの作成方針、実習関連機器の選定等）

④平成28年4月1日教員採用者

基礎系 30名 臨床系 85名 計 115名
（今後の教員採用予定者 67名）

6) 組織関係

平成27年3月末に医学部設置認可申請を行ったことにあわせて、大学全体については大学基本問題検討会議で、医学部に関しては、医学部設置準備委員会が中心となり、医学部設置後における組織の見直し等の検討を行いました。

主な組織改編の方針を以下のとおりとし、準備を進めるとともに、関係規程等の改正作業も行いました。

①学長選考会議の委員構成の見直し

7名から9名に増員

②大学運営会議の設置

大学基本問題検討会議を改組し、大学全体の教育研究に関する事項等を審議、連絡調整を行うことを目的とし、大学運営会議を設置しました。学長、部局長、センター長、学部委員会委員長等で構成します。

③全学組織の新設

キャリア支援センター、入試センターを全学組織として新設しました。

（学生部、教務部、就職部、入試部の4部を廃止）

④各種委員会の見直し

既存委員会を見直し、全学委員会として置くものと、学部には置く委員会に整理しました。

⑤教授会

医学部、薬学部にそれぞれ学部教授会を置き、学長は、両学部教授会構成員としています。各学部教授会に、教務委員会、学生委員会その他各種委員会を置くこととしました。

⑥教養教育センター（新設）

医学部、薬学部の教養教育科目の授業を担当する全学組織として新設しました。

薬学部所属教員から異動と、採用による教員の補強を行いました。

（人文社会科学部門、自然科学部門、体育学部門、語学部門を置く。）

⑦附属施設の新設

医学部に医学教育推進センターを設置しました。

病院に地域医療総合支援センターを設置しました。

⑧広報室の新設

学外への情報発信、問合せ等に対応するための全学組織として新設しました。

⑨事務処理体制の整備

医学部設置に伴い、大学事務局の課名称等を一部変更し、医学部事務室を新設しました。

病院統合等、附属病院の経営企画業務を円滑に行うため、病院事業室を福室キャンパスに移し、病院経営企画部に改組しました。

小松島キャンパスの大学事務局は、全学事務のとりまとめを行う本部機能を持ち、あわせて薬学部及び医学部（主に1, 2年生）に係る事務を処理することとしました。

7) 規程関係

①学則等の規程見直し

組織規程、教授会規程、教養教育センター規程及び医学部関係等の規程を見直しました。

②公印制定

大学名の変更、組織改編に伴い、大学、理事長、学長及び学部長等の公印を改変しました。

8) 処遇関係

①給与格付け、決定

主に医学部教員就任者の給与決定方法を検討。薬学部教員に準じ、手当による調整を加味あわせて、給与システムを整備しました。

②就業規則改正

事業場の扱い：医学部教員は、臨床系教員も含めて全員、小松島キャンパスの大学本部事業所の就業規則を適用することにしました。

特例措置：完成年度までの特例として、教員任期5年を6年に、定年（65歳）を、採用時期に応じて延長できることにしました。

9) 事務組織関係

①医学部設置に伴う事務量の増加に対応するため、平成27年度当初から順次職員の増員を図りました。

（総務、財務、管理、教務各課、キャンパス整備、医学部設置準備室、若林病院事務引き継ぎ等）

②事務室整備

中央棟1階事務室を一部改修し、医学部事務室を整備しました。

10) 名称変更手続

新たに医学部を設置することに伴い、法人及び大学の名称を変更するため文部科学省に変更

申請を行いました。

法人の名称変更に伴う寄附行為の変更認可申請を文部科学省に提出し、平成28年1月28日に認可されました。

11) 福室キャンパス（新校舎）整備関係

①医学部教育研究棟建設用地造成

医学部キャンパス建設用地（附属病院隣地 17,557.96 m²）の開発造成工事を行い、平成28年3月31日に竣工引渡しを受けました。また、関連して病院外来駐車場整備工事、職員駐車場整備工事を行い7月31日に竣工引渡しを受けております。

②第1、第2教育研究棟整備

平成28年4月工事開始に向け、第1教育研究棟（7F）、第2教育研究棟（2F）を新築するための整備計画、スケジュールを立案しました。日建設計による実施設計を平成27年11月に完了し、発注手続きを進めております。

③病院建物整備

新病院棟（150床）の建設計画及び既存病院棟改修計画の検討を進め、6月に第1大学病院棟の実施設計が完了する予定です。

12) その他

①ホームページの更新

HPを全面リデザインすることにし、新大学名にあわせて公開できるよう準備を進めました。

②学生証等の更新

学生証、職員証を全て新規更新しました。

③施設設備増設等

医学部用の掲示板、郵便ボックス、更衣ロッカーを新設しました。

④校歌・校旗

名称変更に伴い校歌及び校旗を改めることについて、校歌・校旗（校章）検討委員会において検討し、校歌については、歌詞の一部を変更し、校旗については、新たにロゴを使用したものを作成しました。

⑤記念式典の計画

平成28年11月27日（日）仙台国際センターにおいて開催予定です。

6. 附属病院の整備

平成28年度からの医学部開設に向けて、診療科及び病床の再編など医療機能の充実はもとより、教育病院の役割を担うための環境整備に取り組みました。

(1) 第2病院の譲受け

文部科学大臣からの医学部設置認可にあたり、附属病院の規模及び機能が医学部の附属病院として十分な水準に至っていないこと、及び薬剤師養成のためにも一層の充実が臨まれることから、医療人養成機関としての体制を強化することを目的に、NTT東日本東北病院の事業を譲受け、平成27年9月30日に最終合意を締結しました。

医学部を設置する平成28年4月に大学病院として開設するため円滑な移行を優先し、病院の診療体制等については基本的に現状維持に努め、移行手続きを遅滞なく進めることに注力しました。

(2) 既存病院の改修

医学部教員の赴任計画に併せ、医療コンサルタントを交えながら段階的にプランを作成し、工事に着手しています。

< 第一次プラン：平成28年3月～5月迄 >

	(新)		(旧)	
i	救急センター仮設	←	救急搬入室・外科診察室一部	1 F
ii	第2処置室(感染)	←	言語心理部検査室	
iii	カウンセリング室 療養指導室	←	家族控室	2 F
iv	腎臓内科診察室等	←	療養指導室 カウンセリング室 患者図書室	
v	感染管理対策室 医療安全対策室 スキンケア管理室	←	統括病院長室	3 F

(3) 新病院棟(150床)の建設

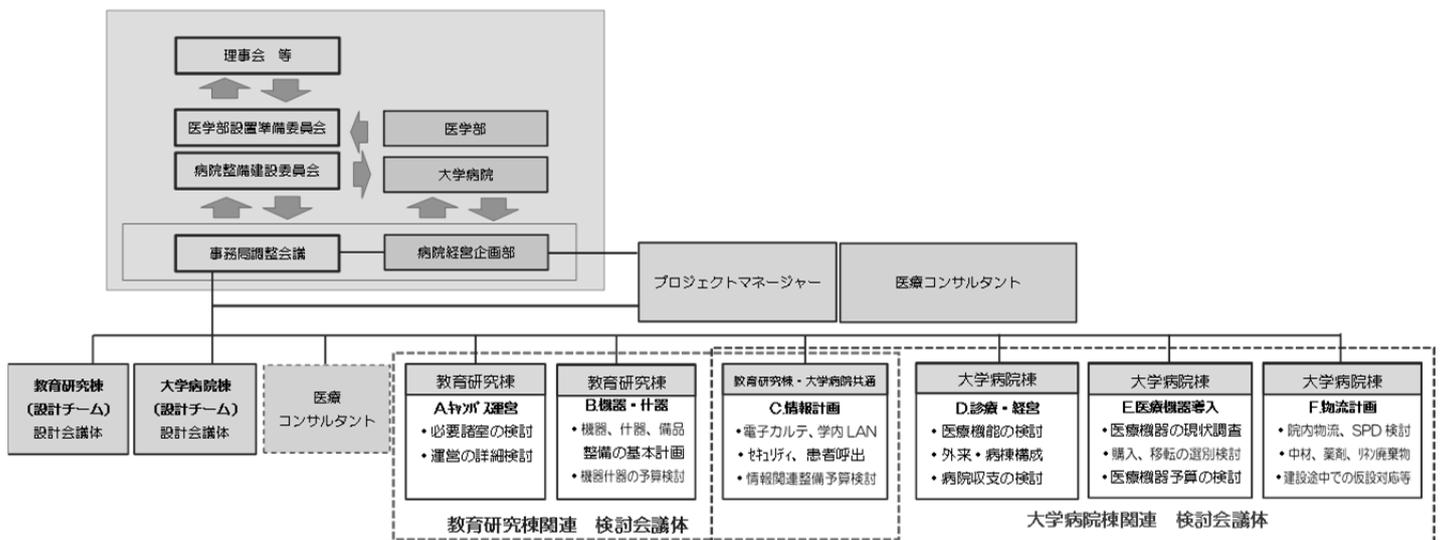
医学部の臨床実習(4年次後期～)にあわせて、平成31年4月の供用開始を目指し、下記の“体制と会議体”のもと医学部と連携し計画を遂行しています。

平成27年10月にマスタープランを策定、平成28年3月に基本設計業務を終了しており、現在は実施設計の段階に入っています。(平成29年3月着工予定)

また、電子カルテの導入を平成29年2月の稼働を目標に進めています。

なお、平成27年度は医事システム及び薬剤部門システム(ハードウェアのみ)を更新しました。

【体制と会議体】



7. 附属病院との教育・研究体制

「教育・研究委員会」では、薬学部及び薬学研究科において附属病院を有効に活用する観点から、以下の施策を検討し実施しています（随時開催）。

（1）学部臨床教育

平成27年度より薬学教育モデル・コアカリキュラムの改正により薬学科が新しいカリキュラムとしてスタートし、それに合わせ従前から実施している薬学早期体験学習（1年次）は名称が「薬学入門演習」へと変更となりました。内容は従前の薬学早期体験学習と同様で、今年度は昨年度より受け入れ人数を拡充し、47名を受け入れ、薬剤部だけでなく看護局の協力を得て内容を充実させることができました。

（2）大学院臨床薬学研修

実習計画書に基づき、昨年度より病棟研修を多く取り入れ、薬剤師としての実践力向上を図るほか、チーム医療の中での薬剤師業務等を実践いたしました。（大学院生4名）

（3）臨床系教員の臨床スキルアップ

病棟での常駐研修に備え、薬学部に新たに購入したフィジカルアセスメント教育のための機器による研修を開始しました。

（4）大学院研究室との共同研究の推進

複数の研究グループが共同研究の実施に向けた打ち合わせ等を行っており、今後の取り組みが期待されるところであります。

（5）学部教育への参加

附属病院医師6名が薬学部講義（薬学科6年生の特殊医療学）を担当しました。

（6）病院職員の大学院入学支援

本学職員の資質向上及び本学の教育研究活動への貢献が期待されるため、本学職員が社会人大学院として入学した際の授業料について減免する制度が平成27年度入学生より実施され、附属病院職員が大学院薬学研究科博士課程に社会人として2名入学し、授業料減免措置が図られました。

（7）その他

「チーム医療教育の実施計画」、「薬剤師生涯研修制度の設計」、「教育・研究委員会の円滑な運営」については、平成28年度も引き続き検討します。

Ⅲ. 財務の概要

〔 総括 〕

平成27年度は、医学部キャンパスの整備を前提に、経常的経費を抑制し資金の確保に主眼を置いた予算を編成し、基本金組入前当年度収支差額1,323百万円（うち宮城県からの施設整備等補助金1,000百万円）を見込んでいました。

平成27年度決算は、大学・法人部門では医学部教育研究棟の着工時期の変更に伴い、宮城県からの補助金交付時期が平成28年度に変更となったことが大きく影響し、基本金組入前当年度収支差額は予算額1,203百万円を1,055百万円下回る、148百万円となりました。

病院部門では医療収入が予算額を100百万円下回った一方で、人件費支出が時間外手当の増加等で予算額を375百万円上回ったほか、医薬品費、診療材料費等の増加により医療経費が予算額を183百万円上回った結果、基本金組入前当年度収支差額は予算額120百万円を716百万円下回る、▲596百万円となりました。

資金収支においては、キャンパス整備費用等に1,938百万円を支出しました。

また、資産総額から負債を差し引いた正味財産は459億円となり、前年度比447百万円減少しております。

本学は、平成28年度以降キャンパス整備のための設備投資が本格化するため、資金管理を強化するとともに、附属病院の収益管理を徹底し、さらなる財政基盤の充実に取り組んでまいります。

1. 資金収支の状況

(単位:千円)

科 目		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
収入の部	学生生徒等納付金収入	3,858,675	3,973,175	3,941,202	3,933,718	3,856,147
	手数料収入	56,829	64,824	74,583	71,774	215,379
	寄付金収入	27,448	41,541	38,936	45,831	78,146
	補助金収入	493,825	565,164	544,680	401,260	480,707
	国庫補助金収入	493,702	565,034	397,900	370,146	451,352
	地方公共団体補助金収入	123	130	143,780	30,614	28,855
	学術研究振興資金収入	0	0	3,000	500	500
	資産売却収入	2,928,400	5,847,829	2,000,000	2,000,431	4,000,000
	付随事業・収益事業収入	3,920	1,690	9,286,749	9,087,855	9,299,303
	受取利息・配当金収入 (旧:資産運用収入)	147,247	144,386	170,752	137,038	64,442
	雑収入	125,236	178,855	142,614	163,522	107,966
	借入金等収入			2,500,000	5,000,000	2,500,000
	前受金収入	346,450	348,150	350,940	341,505	509,990
	その他の収入	117,478	4,293,219	2,730,107	12,670,758	4,764,955
	資金収入調整勘定	△ 473,876	△ 497,345	△ 1,953,319	△ 2,002,669	△ 2,015,403
前年度繰越支払資金	6,947,128	5,889,637	7,399,651	9,900,664	9,458,119	
合 計	14,578,760	20,851,124	27,226,894	41,751,686	33,319,750	
支出の部	人件費支出	1,726,718	1,791,978	6,251,874	6,503,668	6,917,467
	教育研究経費支出	1,348,210	1,389,735	1,118,462	1,140,520	1,194,132
	管理経費支出	307,817	328,942	4,229,270	4,229,325	4,767,477
	借入金等利息支出			7,608	7,016	6,892
	借入金等返済支出				2,500,000	2,500,000
	施設関係支出	16,482	365,926	1,480,837	738,168	2,028,980
	設備関係支出	63,335	262,766	949,582	639,217	514,225
	資産運用支出	5,199,683	9,276,080	4,330,255	16,099,798	6,800,000
	その他の支出	158,166	198,924	236,213	1,375,567	1,023,608
	資金支出調整勘定	△ 131,287	△ 162,878	△ 1,277,872	△ 939,711	△ 1,522,066
	翌年度繰越支払金	5,889,637	7,399,651	9,900,664	9,458,119	9,089,036
	合 計	14,578,760	20,851,124	27,226,894	41,751,686	33,319,750

2.事業活動収支の状況

(単位:千円)

科目		平成26年度	平成27年度	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	3,933,718	3,856,147
		手数料	71,774	215,379
		寄付金	35,856	30,824
		補助金	401,260	426,572
		国庫補助金	370,146	397,217
		地方公共団体補助金	30,614	28,855
		学術研究振興資金	500	500
		付随事業収入	9,087,855	9,299,303
		雑収入	164,326	107,966
		教育活動収入計	13,694,788	13,936,191
	事業活動支出の部	人件費	6,776,242	7,195,453
		教育研究経費	1,887,193	1,947,738
		うち、減価償却額	746,673	753,607
		管理経費	4,747,560	5,307,740
		うち、減価償却額	488,466	541,662
		徴収不能額等	26,449	69,309
		教育活動支出計	13,437,444	14,520,240
		教育活動収支差額	257,344	▲ 584,049
	教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	126,184
教育活動外収入計			126,184	53,506
支出の部		借入金等利息	7,016	6,892
		教育活動外支出計	7,016	6,892
教育活動外収支差額		119,169	46,614	
経常収支差額		376,513	▲ 537,435	
特別収支	収入の部	資産売却差額	224,775	0
		その他の特別収入	24,562	104,618
		特別収支収入計	249,337	104,618
	支出の部	資産処分差額	17,690	7,788
		その他の特別支出	0	6,691
		特別収支支出計	17,690	14,479
特別収支差額	231,647	90,139		
基本金組入前当年度収支差額		608,160	▲ 447,295	
基本金組入額合計		▲ 4,711,423	▲ 3,738,335	
当年度収支差額		▲ 4,103,263	▲ 4,185,630	
前年度繰越収支差額		1,963,408	▲ 1,039,855	
基本金取崩額		1,100,000	0	
翌年度繰越収支差額		▲ 1,039,855	▲ 5,225,486	

※平成27年度から学校法人会計基準の改正により『消費収支計算書』⇒『事業活動収支計算書』に変更

2. 消費収支の状況(参考資料)

(単位:千円)

科 目		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
消費 収入 の 部	学生生徒等納付金 (ア)	3,298,653	3,858,675	3,973,175	3,941,202	3,933,718
	手 数 料	58,832	56,829	64,824	74,583	71,774
	寄 付 金 (イ)	41,809	30,483	53,574	85,023	60,417
	補 助 金 (ウ)	385,814	493,825	565,164	544,680	401,260
	国庫補助金	385,696	493,702	565,034	397,900	370,146
	地方公共団体補助金	118	123	130	143,780	30,614
	学術研究振興資金	0	0	0	3,000	500
	資 産 運 用 収 入	172,724	159,972	157,815	140,304	139,447
	資 産 売 却 差 額 (エ)	9,501		9,646		224,775
	うち、有価証券売却差額	3,697		9,646		224,696
	事 業 収 入	10,450	3,920	1,690	9,286,749	9,087,855
	雑 収 入	218,643	112,917	165,426	129,772	151,063
	合 計 (オ)	4,196,425	4,716,621	4,991,314	14,202,312	14,070,309
	基 本 金 組 入 額 (カ)	△ 4,486,661	△ 3,000,000	△ 3,854,021	△ 3,005,587	△ 4,711,423
(第1号基本金組入額)		13,339		△ 430,021	△ 1,938,431	△ 1,256,014
(第2号基本金組入額)		△ 4,300,000	△ 2,800,000	△ 2,724,000	△ 1,067,157	△ 2,829,410
(第3号基本金組入額)		△ 200,000	△ 200,000	△ 700,000		
(第4号基本金組入額)						△ 626,000
消費収入(オ-カ)(キ)	△ 290,237	1,716,621	1,137,292	11,196,725	9,358,886	
消費 支出 の 部	人 件 費 (ク)	1,879,284	1,670,509	1,773,570	6,574,979	6,776,242
	教 育 研 究 経 費 (ケ)	1,768,472	2,068,443	2,103,696	1,854,793	1,887,193
	うち、減価償却	767,743	720,233	713,961	736,332	746,673
	管 理 経 費 (コ)	444,381	444,547	466,376	4,498,355	4,747,560
	うち、減価償却	133,113	133,331	130,327	375,799	488,466
	借 入 金 等 利 息 (サ)				7,608	7,016
	資 産 処 分 差 額 (シ)	34,833	507,734	6,191	10,150	17,690
	うち、有価証券処分差額		2,563			
	うち、有価証券評価差額					
	徴 収 不 能 額 (ス)		27,180	12,198	16,395	21,985
徴 収 免 除 額			2,160		4,464	
消費支出合計(セ)	4,126,970	4,718,413	4,364,190	12,962,281	13,462,149	
当年度消費収入超過額(キ-セ)						
又は△当年度消費支出超過額	△ 4,417,207	△ 3,001,792	△ 3,226,898	△ 1,765,556	△ 4,103,263	
前年度繰越消費収入超過額	13,664,808	9,247,601	6,856,947	3,630,049	1,963,408	
(又は△前年度繰越消費支出超過額)						
基 本 金 取 崩 額		611,137		98,915	1,100,000	
翌年度繰越消費収入超過額	9,247,601	6,856,947	3,630,049	1,963,408	△ 1,039,855	
(又は△翌年度繰越消費支出超過額)						
帰属収支差額(オ-セ)	69,455	△ 1,792	627,123	1,240,031	608,160	
[(オ)-(イ)-(エ)]-[(セ)-(シ)-(ス)]	52,977	502,639	584,452	1,181,553	367,106	

※帰属収支差額比率=(帰属収入-消費支出)÷帰属収入

	1.7%	0.0%	12.6%	8.7%	4.3%
臨時的要素を除く	1.3%	10.7%	11.9%	8.4%	2.7%

3. 貸借対照表

(単位:千円)

資産の部					
科 目	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
固 定 資 産 (a)	38,738,499	36,424,102	39,084,140	41,039,218	43,805,693
有 形 固 定 資 産	20,280,741	20,071,403	21,087,140	21,098,328	22,385,464
うち、土地	3,755,752	3,755,752	4,249,752	4,249,752	5,611,382
うち、建物	13,447,266	12,932,181	13,341,019	12,703,924	12,104,230
うち、構築物	619,606	593,110	576,564	532,266	794,678
うち、教育研究用機器備品	863,342	924,806	871,354	785,122	831,615
特 定 資 産	11,454,617	14,865,697	16,653,940	18,428,495	19,917,339
うち、第2号基本金引当特定資産	9,889,992	12,767,926	14,254,594	16,828,495	18,117,339
うち、退職給与引当特定資産	1,165,000	1,000,000	1,300,184	1,600,000	1,800,000
そ の 他 の 固 定 資 産	7,003,141	1,487,002	1,343,060	1,512,396	1,502,890
うち、収益事業元入金	0	0	0	0	0
うち、減価償却引当特定資産	0	0	0	0	0
流 動 資 産 (b)	6,649,642	9,606,592	12,174,044	13,237,188	11,079,001
うち、現金・預金 (c)	5,889,637	7,399,651	9,900,664	9,458,119	9,089,036
うち、有価証券	600,000	1,996,887	500,304	1,999,999	200,000
その他	160,005	210,054	1,773,076	1,779,070	1,789,966
資 産 の 部 合 計 (d)	45,388,140	46,030,693	51,258,184	54,276,407	54,884,694
負債の部					
科 目	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
固 定 負 債 (e)	980,258	961,850	1,323,111	4,075,417	4,335,515
うち、長期借入金	0	0	0	2,500,000	2,500,000
うち、学校債	0	0	0	0	0
うち、退職給与引当金	980,258	961,850	1,284,955	1,557,529	1,835,515
流 動 負 債 (f)	510,806	544,644	4,170,842	3,828,599	4,624,084
うち、短期借入金	0	0	2,500,000	2,500,000	2,500,000
うち、前受金 (g)	346,450	348,150	350,940	341,505	509,990
負 債 の 部 合 計 (h)	1,491,064	1,506,494	5,493,953	7,904,016	8,959,599
純資産の部					
科 目	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
基 本 金 (i)	37,040,130	40,894,151	43,800,823	47,412,246	51,150,581
ア 第1号基本金	26,420,130	26,850,151	28,689,666	29,945,680	32,245,440
イ 第2号基本金	9,900,000	12,624,000	13,691,157	16,520,566	17,928,141
ウ 第3号基本金	400,000	1,100,000	1,100,000	0	0
エ 第4号基本金	320,000	320,000	320,000	946,000	977,000
繰 越 収 支 差 額 (j)	6,856,947	3,630,049	1,963,408	△ 1,039,855	△ 5,225,486
翌年度繰越収支差額	6,856,947	3,630,049	1,963,408	△ 1,039,855	△ 5,225,486
純 資 産 の 部 合 計 (i) + (j)	43,897,076	44,524,200	45,764,231	46,372,391	45,925,096
負 債 及 び 純 資 産 の 部 合 計	45,388,140	46,030,693	51,258,184	54,276,407	54,884,694
減価償却額の累積額の合計額	6,134,298	6,788,716	7,297,612	8,387,468	9,585,257
基 本 金 未 組 入 額 (k)	0	14,644	38,250	35,453	170,512

4. 財産目録

(単位:千円)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
I 資産総額	45,388,140	46,030,693	51,258,184	54,276,407	54,884,694
内基本財産	20,285,832	20,076,079	21,430,304	21,569,665	22,855,695
運用財産	25,102,309	25,954,615	29,827,880	32,706,742	32,028,999
II 負債総額	1,491,064	1,506,494	5,493,953	7,904,016	8,959,599
III 正味財産	43,897,076	44,524,200	45,764,231	46,372,391	45,925,096
区 分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
一 資産額					
(一)基本財産	20,285,832	20,076,079	21,430,304	21,593,665	22,855,695
1土地	3,755,752	3,755,752	4,249,752	4,249,752	5,611,382
2建物	13,447,266	12,932,181	13,341,019	12,703,924	12,104,230
3構築物	619,606	593,110	576,564	532,266	794,678
4機器備品	1,069,711	1,154,886	1,415,616	1,532,985	1,582,503
5図書	1,388,407	1,404,284	1,419,874	1,435,145	1,446,268
6建設仮勘定		231,190	84,315	644,257	846,403
7その他	5,091	4,676	343,164	495,337	470,231
(二)運用財産	25,102,309	25,954,615	29,827,880	32,682,742	32,028,999
1現金・預金	11,354,637	12,199,651	12,200,664	12,158,119	13,289,036
2有価証券	13,129,379	13,067,276	15,354,241	18,227,944	16,417,008
3その他	618,292	687,687	2,272,974	2,296,679	2,322,955
合 計	45,388,140	46,030,693	51,258,184	54,276,407	54,884,694
二 負債額					
1固定負債	980,258	961,850	1,323,111	4,075,417	4,335,515
退職給与引当金	980,258	961,850	1,284,955	1,557,529	1,835,515
長期未払金			38,156	17,888	
長期借入金				2,500,000	2,500,000
2流動負債	510,806	544,644	4,170,842	3,828,599	4,624,084
未払金	106,048	137,693	1,202,120	882,987	1,483,546
前受金	346,450	348,150	350,940	341,505	509,990
預り金	58,308	58,800	115,191	103,736	128,604
短期借入金			2,500,000	2,500,000	2,500,000
仮受金			2,592	372	1,944
合 計	1,491,064	1,506,494	5,493,953	7,904,016	8,959,599
三 正味財産 (資産総額-負債総額)	43,897,076	44,524,200	45,764,231	46,372,391	45,925,096

5. 財務比率表

分類	比 率	算 式 (×100)	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	全国平均 (医歯系を除く)	評
貸 借 対 照 表	繰越収支差額構成比率 (旧:消費収支差額構成比率)	$\frac{\text{繰越収支差額 (j)}}{\text{総負債+純資産 (h)+(i)+(j)}}$	15.1%	7.9%	3.8%	-1.9%	-9.5%	-12.9%	△
	基本金比率	$\frac{\text{基本金 (i)}}{\text{基本金要繰入額 (i)+(k)}}$	100.0%	100.0%	99.9%	99.9%	99.7%	97.1%	△
	固定比率	$\frac{\text{固定資産 (a)}}{\text{純資産 (i)+(j)}}$	88.2%	81.8%	85.4%	88.5%	95.4%	98.8%	▼
	固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産 (a)}}{\text{純資産+固定負債 (i)+(j)+(e)}}$	86.3%	80.1%	83.0%	81.3%	87.2%	91.3%	▼
	流動比率	$\frac{\text{流動資産 (b)}}{\text{流動負債 (f)}}$	1301.8%	1763.8%	291.9%	345.7%	239.6%	253.2%	△
	前受金保有率	$\frac{\text{現金預金 (c)}}{\text{前受金 (g)}}$	1700.0%	2125.4%	2821.2%	2769.5%	1782.2%	344.6%	△
	総負債比率	$\frac{\text{総負債 (h)}}{\text{総資産 (d)}}$	3.3%	3.3%	10.7%	14.6%	16.3%	12.5%	▼
	負債率	$\frac{\text{総負債-前受金 (h)-(g)}}{\text{総資産 (d)}}$	2.5%	2.5%	10.0%	13.9%	15.4%	--	/
	基本金実質組入率	$\frac{\text{純資産 (i)+(j)}}{\text{基本金要組入額 (i)+(k)}}$	118.5%	108.8%	104.4%	97.7%	89.5%	--	/
事 業 活 動 収 支 計 算 書	人件費比率	$\frac{\text{人件費 (ク)}}{\text{帰属収入 (オ)}}$	35.4%	35.5%	46.3%	48.2%	51.6%	50.9%	▼
	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費 (ケ)}}{\text{帰属収入 (オ)}}$	43.9%	42.1%	13.1%	13.4%	14.0%	31.2%	△
	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費 (コ)}}{\text{帰属収入 (オ)}}$	9.4%	9.3%	31.7%	33.7%	38.1%	9.0%	▼
	事業活動収支比率 (旧:消費収支比率)	$\frac{\text{消費支出 (セ)}}{\text{帰属収入 (オ)}}$	100.0%	87.4%	91.3%	95.7%	104.3%	--	/
	【経常経費依存率】	$\frac{\text{消費支出 (セ)}}{\text{学生生徒等納付金 (ア)}}$	122.3%	109.8%	328.9%	342.2%	377.1%	--	/
	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金 (ア)}}{\text{帰属収入 (オ)}}$	81.8%	79.6%	27.8%	28.0%	27.7%	69.5%	~
	寄付金比率	$\frac{\text{寄付金 (イ)}}{\text{帰属収入 (オ)}}$	0.6%	1.1%	0.6%	0.4%	0.2%	3.9%	△
	補助金比率	$\frac{\text{補助金 (ウ)}}{\text{帰属収入 (オ)}}$	10.5%	11.3%	3.8%	2.9%	3.1%	12.2%	△
	基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額 (カ)}}{\text{帰属収入 (オ)}}$	63.6%	77.2%	21.2%	33.5%	26.8%	13.6%	△

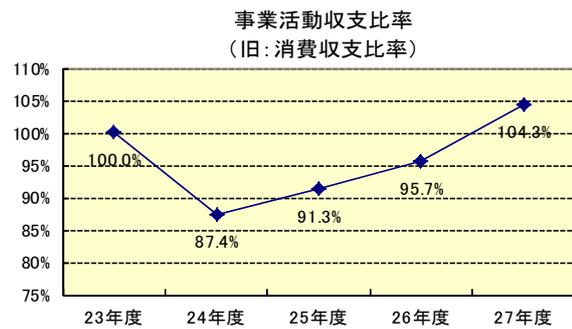
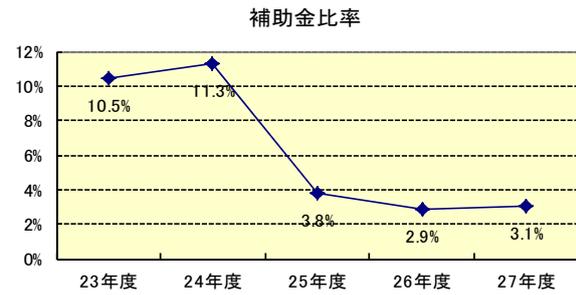
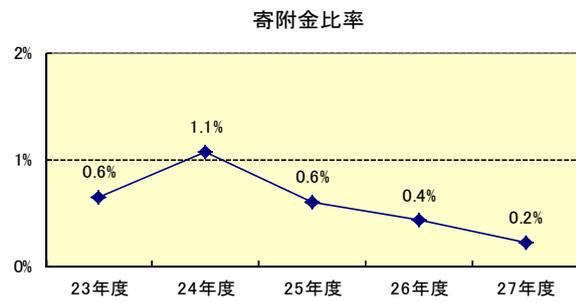
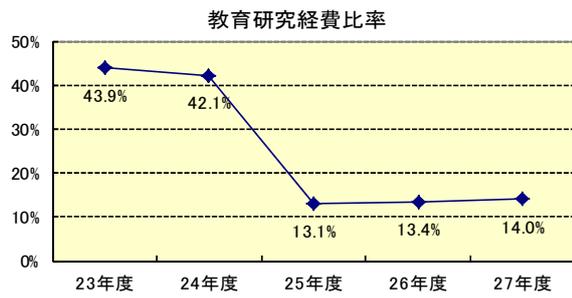
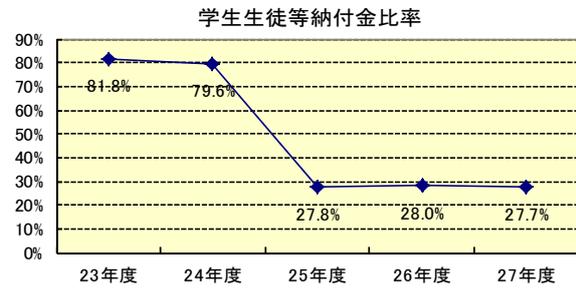
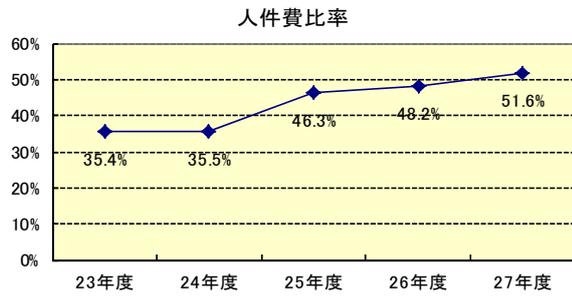
※ △:高い値が良い、▼:低い値が良い、~:どちらともいえない

※ 全国平均(医歯系法人を除く)比率:「今日の私学財政27年度版」(日本私立学校振興・共済事業団)参照

※ 平成27年度の『事業活動収支計算書』の数値は、経年比較のため『消費収支計算書』時の算式に数値を入れて算出したもの

⇒ 「2. 消費収支の状況(参考資料)」参照

財務比率(事業活動収支計算書関係)



※ 平成27年度の数値は、経年比較のため『消費収支計算書』時の算式に数値を入れて算出したもの

財務比率(貸借対照表関係)

